

東北環境パートナーシップオフィス 運営第 6 期

令和 6 年度 事業実施報告書

運営第 6 期：令和 4 年度（2022 年度）～令和 6 年度（2024 年度）



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD 活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

目次

I .EPO 東北 運営期ごとの記録		
1. 運営期と主な出来事		P4
2. EPO 東北事業の変遷		P6
3. 情報発信の記録		P11
II . 事業計画		
1. 運営第 6 期 中期事業計画		P17
2. 令和 6 年度 事業計画		P19
III . 事業報告		
1. 令和 6 年度 事業総括		P27
2. 事業実施一覧		P28
3. 出張・外出のべ日数		P36
4. 事業実施報告		
(1) EPO 東北業務		
1) 運営		
①事業検討委員会の開催運営		P37
2) 基本業務		
①ウェブサイト等を活用した情報発信、PR		P38
②相談対応、対話の場作り等		
③全国事業に係わる業務		P40
③ -1. 全国 EPO 連絡会		
③ -2. 協働取組の効果最大化に関する検討会議		
③ -3.EPO ネットワークとの情報交換会		P41
④東北地方環境事務所との協働		
⑤施設の維持・管理		
⑥地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業		
⑥ -1. セミナー動画 「サーキュラーエコノミー 循環基本計画と東北の事例を知る」		P42
⑥ -2. 脱炭素経営に関するセミナー		P43
⑥ -3. 中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営セミナー in 青森		P44
3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務		
①地域循環共生圏づくり支援体制構築事業		P45
① -1. 中間支援機能の担い手育成		
① -1-1. 一般社団法人ゴジョる		P48
① -1-2. 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン		P49
① -1-3. 西川町地域資源活用イノベーション推進協議会		P50
① -2. 東北ブロックキックオフミーティング		P51
① -3. 東北ブロック中間共有会		
① -4.GEOC が主催する会議等への参加		P52
① -5. 次年度事業の参加団体の審査委員会運営業務		P54
① -6. 卒業団体のフォローアップ調査		P55
②地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会		P56
② -1. ビオトープフォーラム in 仙台 2024		P57
② -2. セミナー動画「ネイチャーポジティブ - 農林業と自然が紡ぐ、持続可能な地域づくりの可能性 -」		P58
4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化		
①みちのく薪びと祭り 2024in 宮城川崎		P59

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務		
1) 運営		
①企画運営委員会の開催運営等		P62
2) 基本業務		
① ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供等		P63
② ESD 活動に関する相談・支援窓口		
② -1.ESD 活動に関する相談及び支援		P64
② -2.ESD 地域コーディネーター		P65
3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供		P67
① ESDfor2030 学びあいプロジェクトの企画及び実施		
② ノウハウの共有と推進に関する方策の検討		P70
4) 東北 ESD/SDGs フォーラム等の開催		P71
5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援		P73
6) ESD 推進地域研修会		
7) 全国センターとの連携協力の推進等		P74
① ESD 全国フォーラム		P76
② ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会		
③ ESD 活動支援センターの今後の方策を考える意見交換会		P77
④ 全国協力団体意見交換会		
⑤ 全国センター企画運営委員会		
8) その他		P78
① 青森県ユネスコスクール連絡協議会		
(3) その他 企業等との協働事業		
1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携		P79
2) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト		P80

【Ⅰ .EPO 東北 運営期ごとの記録】 1. 運営期と主な出来事

Ⅰ -1. 運営期と主な出来事

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第 1 期	NPO 法人 水環境ネット 東北	平成 18 年度 (2006)	EPO 東北 開設	国連 ESD の 10 年 (2005 ~ 2014 年)
		平成 19 年度 (2007)		
		平成 20 年度 (2008)		
		平成 21 年度 (2009)		
第 2 期		平成 22 年度 (2010)	生物多様性条約第 10 回締約国会議 生物多様性交流フェアブース出展	- 愛知目標 (2011 ~ 2020 年) - 東日本大震災 (2011/3/11)
		平成 23 年度 (2011)	「3.11 あの時」ヒアリングスタート 	国連生物多様性の 10 年 (2011 ~ 2020 年) 
		平成 24 年度 (2012)	「3.11 あの時」レポート冊子化 - 伴走支援型事業「環境 NPO 等ビジネスモデル策定事業」(H24 ~ 25)	国連持続可能な開発会議
第 3 期	公益財団法人 みやぎ・ 環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	平成 25 年度 (2013)	伴走支援型事業「協働取組の加速化事業」(H25 ~ H29)	三陸復興公園の創設とみちのく潮風トレイルの開通
		平成 26 年度 (2014)	- EPO 東北オフィス移転 - みちのく薪びと祭り開催 (H26 ~ R 元年) 	- ESD ユネスコ世界会議 (愛知県) - グローバル・アクション・プログラム (GAP) (2015 ~ 2019 年) 
		平成 27 年度 (2015)	「3.11 あの時」事例集発行	- 持続可能な開発目標 (SDGs) 採択 - パリ協定 採択
第 4 期		平成 28 年度 (2016)	地方 ESD 活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務	- ESD 国内実施計画策定 - ESD 活動支援センター 開設
		平成 29 年度 (2017)	東北地方 ESD 活動支援センター開設 	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 
		平成 30 年度 (2018)	伴走支援型事業「環境課題と社会課題の同時解決事業」(H30 ~ R1) 	第 5 次環境基本計画で「地域循環共生圏」提唱 

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第 5 期		令和元年度 (2019)	・みちのく薪びと祭り東北一巡達成 ・機関誌 EPO 東北通信の改定 	・新型コロナウイルスが世界中で広がる ・持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）採択
		令和 2 年度 (2020)	・新型コロナウイルス感染防止措置の徹底 ・伴走支援型事業「地域循環共生圏プラットフォームづくり事業」(R2～5) ・オンライン会議／催事の開催	・ESD for 2030 (2020～2030 年) ・新学習指導要領スタート（小学校） ・政府が 2050 年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言
		令和 3 年度 (2021)	・ESD for 2030 学び合いプロジェクトの実施 (R3～) ・東北 ESD/SDGs フォーラム in あもりの開催	・脱炭素ロードマップ策定 ・第 2 期 ESD 国内実施計画策定 ・グラスゴー気候合意採択 ・新型コロナウイルス感染症変異株の流行
第 6 期		令和 4 年度 (2022)	・みちのく薪びと祭り 2 年ぶりの対面開催 ・収録型アーカイブ配信を試行 ・「ESD 地域コーディネーター」の試行 	・30by30 ロードマップの策定 ・地球温暖化対策推進法の改正 ・2050 年カーボンニュートラル実現を法律に明記 ・環境省が「脱炭素先行地域」を選定 ・国際目標「30by30」採択 
		令和 5 年度 (2023)	・ESD 地域コーディネーターの拡充と協働事業の実施 ・伴走支援型事業「地域循環共生圏プラットフォームづくり事業」最終年度 ・青森県内の地域 ESD 拠点と連携した ESD for 2030 学び合いプロジェクトを実施 	・国内の認定制度「自然共生サイト」認定開始 ・国連気候変動枠組条約締約国会議（COP28）でエネルギーシステムにおいて化石燃料から転換していくことに合意 
		令和 6 年度 (2024)	・地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 (R6～) ・「地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業」を基本業務に位置づけ ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 福島只見の開催	・国連未来サミット開催 ・第 6 次環境基本計画の上位目標に「ウェルビーイング／高い生活の質」が掲げられた

【Ⅰ .EPO 東北 運営期ごとの記録】 2.EPO 東北事業の変遷

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

EPO 東北
独自事業

主催型

シンポジウム
フォーラム

交流会型事業へ

再生可能エネルギー交流会



再生可能エネルギー交流会①②



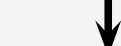
東日本大震災対応

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

- ・ 1 週間閉館／スタッフ自宅待機
- ・ 3/22 ～出勤
 - 各家庭の状況確認
 - 事務局体制、勤務について協議
 - 東北地方環境事務所と対応協議



現場踏査・ヒアリング



- ・ Web サイト特設ページ開設
- ・ 3.11 からの学びの記録・発信



継続

冊子化①



環境省伴走支援事業、他

COP10
生物多様性交流フェア
ブース展示



復興支援活動のマッチング
グリーンサンタ®
被災小学校・幼稚園訪問



環境 NPO 等
ビジネスモデル策定事業

【宮城】NPO 法人東鳴子ゆめ会議
【宮城】NPO 法人日本の森
バイオマスネットワーク



運営第3期

H25（2013）年度

H26（2014）年度

H27（2015）年度

事業連携の模索

地域開催型へ

EPO東北
独自事業

分科会

テーマ「薪」
テーマ「BDF」

EPO 間連携

再生可能エネルギー交流会 in 広島

中間支援組織交流会 in 宮城



みちのく薪びと祭り

第1回 in 山形さんぜ

第2回 in 岩手とおの

再生可能エネルギー交流会 in 福岡

中間支援組織交流会 in 広島



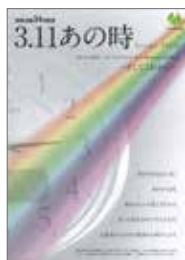
再生可能エネルギー交流会 in 四国

中間支援組織交流会 in 関東



現場踏査・ヒアリング

冊子化②



追加ヒアリング

冊子化③



事例集

「3.11 あの時
教訓事例集
- 中間支援組織
1年間の後方支援活動
の記録 -」



東日本大震災対応

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知



【岩手】（株）紬
【宮城】（一社）チガノウラカゼコミュニティ

事例集

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【宮城】（一社）持続可能で安心安全な社会を
めざす新エネルギー活用推進協議会



地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【青森】（一社）白山山地財団



【岩手】マイムマイム奥州
【秋田】（一社）あきた地球環境会議



環境省伴走支援事業、他

運営第4期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

協働の実践

協働型の交流会開催へ

みちのく薪びと祭り

● 第3回 in 福島みなみあいづ

● 第4回 in 宮城なるこ

● 第5回 in 秋田梅内

EPO 間連携

● 中間支援組織交流会 in 四国

ビジターセンター交流会

第1回 in 仙台
第2回 in 網張ビジターセンター



EPO東北
独自事業

地方 ESD 活動支援センター設置 に向けた体制整備等検討業務



東北地方 ESD 活動支援センター

- ・ 7/3 開設
- ・ 東北 ESD フォーラム 2018 (仙台)



東北 ESD フォーラム in 岩手



東北 ESD センター

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

● ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知

● ESD 学びあいフォーラム in 中部

● ESD 学びあいフォーラム in 愛知



事例集
「3.11 あの時
教訓事例集」



東日本大震災対応

地域活性化を担う環境保全活動 の協働取組推進事業

【秋田】(一社) あきた地球環境会議
【山形】三瀬地区自治会

【山形】三瀬地区自治会



SDGs をツールとした地域の 環境課題と社会課題を同時解決 するための民間活動支援事業

【山形】三瀬地区自治会



環境教育における「ESD 推進」の ための先導的取組調査・実践拠点 支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【岩手】マイムマイム奥州

環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【秋田】(一社) あきた地球環境会議

【秋田】(一社) あきた地球環境会議

環境省伴走支援事業

運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

リソースの活用

ネットワーク型の事業展開

みちのく薪びと祭り

第6回 in 青森おおわに

薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北

薪びと祭りキーパーソン会議 in 鳴子

EPO 間連携

第3回 in 名取トレイルセンター

中止

第4回 in 裏磐梯ビジターセンター

第5回オンライン開催

ビジターセンター交流会



EPO東北
独自事業

東北ESDセンター

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森



- ・東北 ESD/SDGs フォーラム 2020 YouTube 配信
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森

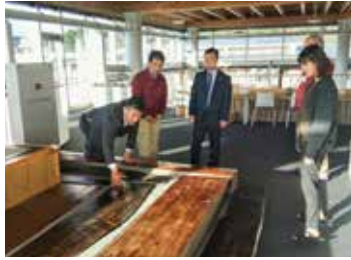


- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in あおもり
- ・「ハイブリッド開催」
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



東日本大震災対応

- ・福島ヒアリング



- ・福島ヒアリング

大震災から 10 年

新型コロナウイルス感染症の流行

- 第1波 3～5月【緊急事態宣言（1回目）】
- 第2波 7～8月
- 第3波 11～3月【緊急事態宣言（2回目）】

- ・執務室・会議室の感染予防対策実施
- ・会議室貸出ガイドラインの作成
- ・オンライン会議／催事の実施
- ・感染状況に応じて出張・外出、対面打合せの自粛

- 第4波 3～4月【緊急事態宣言（3回目）】
- ※変異ウイルス（アルファ株）
- 第5波 7～9月【緊急事態宣言（4回目）】
- ※変異ウイルス（デルタ株）
- 第6波 1～6月
- ※変異ウイルス（オミクロン株）

2020/1/14 WHO 新型コロナウイルスを確認
1/16 日本国内で初めて感染確認

環境省伴走支援事業

【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施

地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援等業務

- 【宮城】（一社）Reborn-Art Festival（リボン・アート・フェスティバル）
- 【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

- ・ESG 金融フォーラム in 岩手

《事業化支援》

【宮城】（一社）Reborn-Art Festival

《環境整備》

- 【青森】NPO 法人循環型社会創造ネットワーク
- 【山形】三瀬地区自治会
- 【山形】米沢市



- ・ESG 金融シンポジウム in 秋田

運営第6期

	R4 (2022) 年度	R5 (2023) 年度	R6 (2024) 年度
EPO東北	運営体制の模索 みちのく薪びと祭り Stag2 in 三瀬 EPO 間連携 生物多様性 ・勉強会 ・動画配信 	Stag2 in 釜石 ※共生圏 PF 事業 中間共有会と連動開催 ・シンポジウム生物多様性と秋田の未来 ステークホルダー連携促進事業 ・フォーラム「気候危機時代を生き抜くサステナブル経営」(宮城) ・ESG 金融・脱炭素経営セミナー in 青森 ・事業者向け ESD/SDGs セミナー (宮城) ・過年度事業フォローアップ	Stag2 in 宮城川崎 ※運営主体を地域の団体が担うスタイルで実施 ・ピオトープフォーラム in 仙台 2024 ・ネイチャーポジティブをテーマとした動画セミナー ・脱炭素経営セミナー (宮城) ・ESG 金融・脱炭素経営セミナー (青森) ・サーキュラーエコノミーをテーマとした動画セミナー 
	東北 ESD/SDGs フォーラム YouTube 配信、アーカイブ配信 ESDfor2030 学び合いPJ 地域 ESD 拠点、学校との連携 ESD 地域研修会 ・ESD 実践校の支援 3 件 ・環境施設との意見交換会 ESD 地域コーディネーター 試験的な導入・実施 	・ハイブリット開催 (宮城) ・アーカイブ配信 ・ESD 地域コーディネーターとの協働 ・学校との連携 ・あおもり気候変動教育プログラムの創出 ・ESD 地域コーディネーターとの協働 ・ESD 地域コーディネーターの拡充 	・フォーラム in 福島只見 (ハイブリット) ・只見伝承産品体験活動、只見町 ESD 公開授業研究会と連携 ・ESD 地域コーディネーターとの協働、過年度事業のフォローアップ ・仙台市桂市民センターとの連携 ・勉強会の開催 
環境省伴走支援事業	地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援等業務 ≪事業化支援≫ 【宮城】(一社) Reborn-Art Festival ≪環境整備≫ 【岩手】(株) アースカラー 【山形】米沢市 	「事業化支援」 【山形】日承循環合同会社 「環境整備」 【岩手】(株) アースカラー 【岩手】(一社) ゴジョる 【山形】西川町地域資源活用イノベーション推進協議会 	地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 【岩手】(一社) ゴジョる 【宮城】(一社) フィッシャーマン・ジャパン 【山形】西川町地域資源活用イノベーション推進協議会 
	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 ・ESG 金融セミナー in 青森、in 弘前 ・ESG 金融フォローアップ研修@秋田		
	新型コロナウイルス感染症の流行 第7波 7月～9月 ※変異株の流行 3/13～マスクの着用は個人の判断が基本	5/8 感染法上の分類を5類感染症へ移行	

【I .EPO 東北 運営期ごとの記録】 3. 情報発信の記録

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

ウェブサイト等

環境の整備
情報発信ツールリニューアル

- Web-site
- メールマガジン
(月 1 回 + 増刊号)
- リーフレット
- 封筒

H23 (2011) 年
3 月 11 日 (金) 14 時 46 分
東日本大震災

【緊急対応】

Web-site
3/17 閉館のお知らせ掲載
3/24 ~ 震災対応に関する
お知らせ掲載

Web-site

「3.11 あの時」特設ページ開設

- スタッフ発信「現地レポート」
- 「3.11 あの時」レポート配信



サイトリニューアル

- 「3.11 あの時」特設ページ
→ 常設ページへ
- 前年度掲載ページの移行



機関誌

- 紙面リニューアル
- 年 2 回発行



- 特集面に環境復興再生プロジェクトを掲載
- エコグッズ紹介面に復興支援商品を掲載



継続



- Vol.16 (2012 年 11 月号) ~
特集面を EPO 東北の取り組み紹介
ページに変更

冊子等

ESD テキストブック
パートⅡ
広げよう東北の環境力
ESD つながる事例集



3.11 あの時
2011 年版



運営第 3 期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

ウェブサイト等

サイトリニューアル



7月16日

Web-site 障害発生

不正な改ざんを確認
→対応、対策協議
→サーバー初期化

メールマガジン

・月2回配信へ

6月14日
オフィス移転

- ・リーフレット改訂
- ・各種表示の改訂



サイトの新規構築

スタッフが構築していた体制を見直し、専門業者へ依頼



- ・3.11 あの時 2015 年版
レポート配信開始



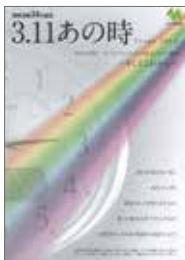
機関誌

- ・特集面を取材記事の掲載に変更



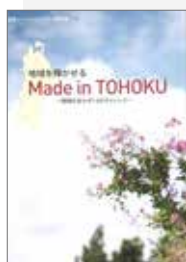
冊子等

3.11 あの時
2012 年版



◆ 3.11 あの時
2011 年版 増刷

3.11 あの時
2013 年版



環境ソーシャル
ビジネス事例集
地域を輝かせる
Made in TOHOKU
～環境を活かす
14 のチャレンジ～

3.11 あの時事例集
—中間支援組織
1 年間の後方支援
活動の記録—



EPO 東北 6 年間の
運営業務 総括
運営第 2 期～第 3 期



運営第 4 期

H28（2016）年度

H29（2017）年度

H30（2018）年度

ウェブサイト等

- 東北地方 ESD 活動支援センター
- ・ウェブサイト開設（9/1）
 - ・リーフレット作成
 - ・封筒改定



機関誌

- ・表紙をマイナーチェンジ
- ・東北 6 県トピックスデザイン変更



- ・特集面を寄稿記事に変更



冊子等

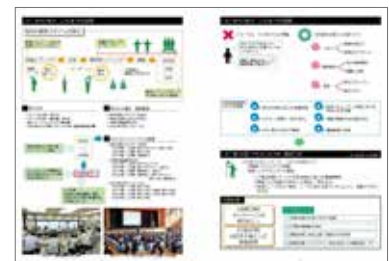
3.11 あの時
教訓事例集



EPO 東北
業務報告書の
ビジュアル化



東北地方 ESD 活動支援
センター業務報告書の
ビジュアル化



運営第 5 期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

ウェブサイト等

メールマガジン

- ・リニューアル（9 月配信号から）
EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センターからの情報を掲載

リーフレット改訂

- ・EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを一本化



EPO 東北ウェブサイト

- ・レンタルサーバーの PHP バージョンアップに伴うシステム全般の改修
- ・サイトリニューアル（レスポンス対応）

東北地方 ESD 活動支援センターウェブサイト

- ・全国センターへ更新依頼を行う体制から、東北地方 ESD 活動支援センター内で更新作業ができる体制への移行

メールマガジン

- ・レンタルサーバーの PHP バージョンアップに伴いメールマガジン配信に不具合が発生（11 月）
- ・配信システムの見直し

オンライン会議 / 催事対応

- ・Web 会議システム、機材の導入



メールマガジン

- ・配信システムの外部サービス利用開始

オンライン会議 / 催事対応

- ・機材の追加整備
- ・催事での配信業務の外部委託

機関誌

EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センター PR ツールとして機関誌の位置づけを見直し

- ・紙面リニューアル
- ・8 ページ→ 16 ページへ
- ・年 2 回発行→年 1 回発行へ



R3 年度 3 月で発行を終了

冊子等

SDGs 紹介チラシの作成



SDGs 紹介子ども向けチラシの作成



業務報告書の一本化

運営第 6 期

R4 (2022) 年度

R5 (2023) 年度

R6 (2024) 年度

ウェブ
サイト等

オンライン会議対応

▲不具合の発生 (4 月～)

- ・音声の乱れ
- ・ネット接続が切れる

【対応】(6 月～11 月)

- ・通信環境の調査
- ・執務室内接続の変更
- ・新たに Wi-Fi アクセスポイントの設置 (11/16)

オンライン催事対応

- ・配信業務の外部委託
- ・スタジオ収録型アーカイブ配信の試行



EPO 東北ウェブサイト

MySQL バージョンアップに伴う、WEB サーバのバージョンアップ対応
作業期間中の更新停止 (7/4～7/6)

東北 ESD センターウェブサイト

- ・WEB サーバ移行に伴う対応
作業期間中の更新停止 (4/20～4/26)
- ・サイト内のカテゴリ分類を再編
- ・地域 ESD 活動推進拠点を紹介する電子パンフレット掲載



メールマガジン

配信サービス終了に伴う
利用変更

- ・地域 ESD 活動推進拠点を紹介する電子パンフレット掲載 (継続)



冊子
等

業務報告書類の見直し

- ・事業報告、催事報告書類の廃止
- ・「事業実施報告書」への一本化



東北 ESD センター活動レポート

- ・東北 ESD センターの紹介
- ・地域 ESD 活動推進拠点 10 団体の紹介



東北 ESD センター活動レポート

- ・東北 ESD センターの紹介
- ・地域 ESD 活動推進拠点 9 団体の紹介



プロジェクトごとのまとめ資料作成

- ・みちのく薪びと祭り
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



TEEN24 調査協力

日中韓環境教育ネットワーク (TEEN)

『気候変動の緩和と適応を目標とした環境教育～「参画」に焦点を当てて～』に関する比較調査に協力、公式ウェブサイトで公表

プロジェクトごとのまとめ資料作成

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム



プロジェクト紹介資料作成

- ・地域循環共生圏づくり事業



運営第 6 期

令和 4 年度（2022 年度）～令和 6 年度（2024 年度）

中期事業計画と令和 6 年度事業計画

運営第6期 中期事業計画

これまで EPO 東北では県境を越えて東北ブロックのネットワークを形成することに注力してきました。社会の動きは大きな変革期を迎えており、地域の課題解決にあたり、課題の本質を見極めること、環境面だけではなく社会的・経済的な側面からも向上を図る視点を持つことが肝要です。また、その実行にあたっては多様な主体の連携・協働が欠かせないことから、分野を横断する重層的なネットワークの構築により、多角的な視野を持って課題解決の手法を議論し、これまでにない新しい取組みを創出することが期待されます。

そこで、仙台に拠点がある EPO 東北並びに東北地方 ESD 活動支援センターの連携を円滑にするため、新たなネットワーク基盤及び運営基盤づくりに取り組みます。パートナーシップ団体や地域 ESD 活動推進拠点、地域で活動に取り組む様々な主体との連携・協働のあり方を見直し、オンラインの手法を活用しながら時代に即したスタイルへとネットワークを結び直します。ついては、新たに地域の活動を支援するコーディネーターを発掘し、「地域リソースの活用」からステップアップし、「地域リソースが主体的に動くしくみ」づくりを目指します。環境活動に取り組む自治体、NPO、企業、大学等、多様な主体に働きかけることで、活動の底上げを図ります。



目標 新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立

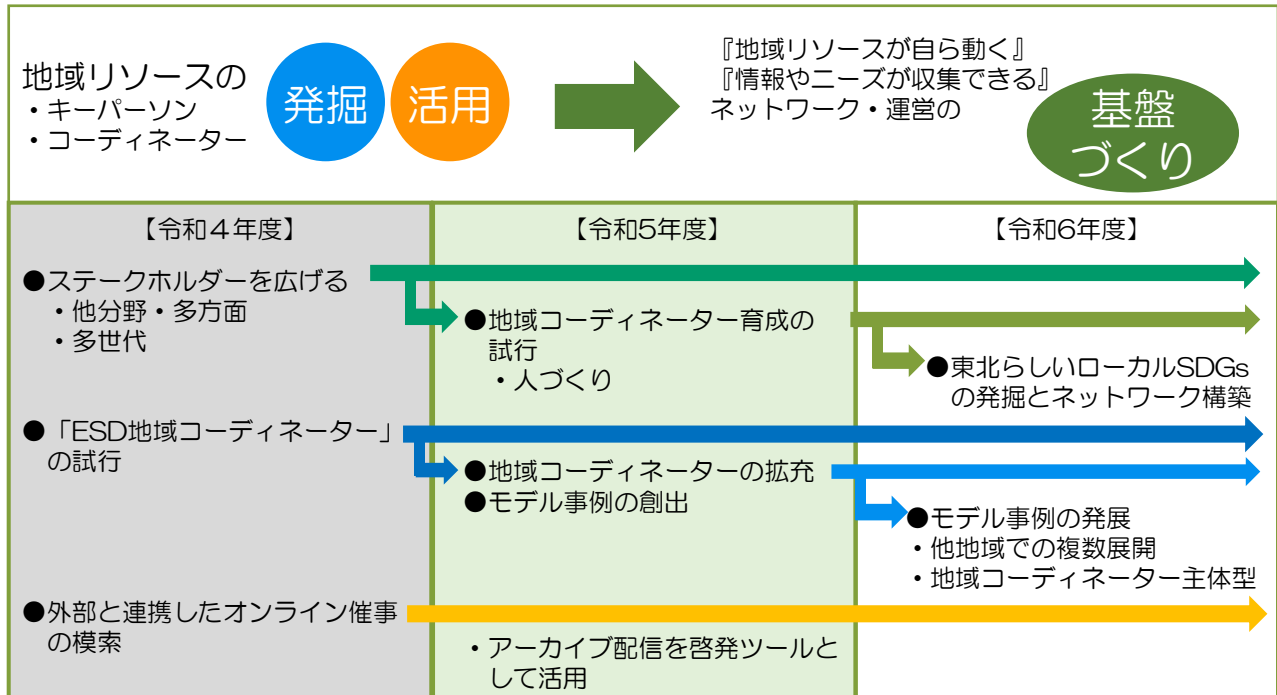
- ・地域ネットワークと接続した重層的・複線的なネットワークを構築する
- ・外部リソースを活用した運営体制

課題

新たなテーマでの連携・協働体制の構築	・「脱炭素」「OECD」等、新たなテーマへの対応 ・ESD の質的向上・量的拡大
既存の地域ネットワークとの接続	・既存ネットワークの結び直し ・時代に即した連携・協働のあり方の模索
運営体制の再構築	・業務の効率化 ・外部リソースの活用

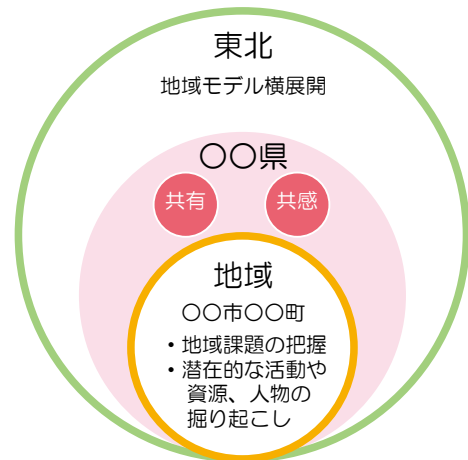
業務の目的

運営第6期（令和4年度～令和6年度）
中期目標：新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立



【ネットワークの展開イメージ】

- STEP1** 地域への働きかけ
- STEP2** 地域から県域への広がり
- STEP3** モデルを東北の他の地域へ横展開



業務の目的

EPO 東北が環境教育等促進法に規定する国の役割を果たすため、また、東北地方 ESD 活動支援センターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、以下を目的に業務を推進します。

- ①様々な主体との連携・協働の取り組みを広げ、効果的かつ効率的に環境保全活動や環境施策への協力及び ESD 活動を活性化させること
- ②東北ブロックにおける多様な主体のネットワークの構築により ESD の質的向上・量的拡大を図ること
- ③地域の ESD と地域内外の ESD 活動をつなぎ、人づくりの側面から ESD の目標である SDGs 実現への貢献に寄与すること
- ④地域循環共生圏および地域脱炭素ロードマップの考え方に基づき、持続可能な地域づくりを通じて環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むこと

東北環境パートナーシップオフィス 令和6年度事業計画書

1.EPO 東北運営業務

(1) 事業検討委員会の開催運営等

概要	EPO 東北業務の実施に当たり、幅広い知見から意見を聴取することを目的に NPO、行政及び企業等の関係者からなる委員会を設置し、年 2 回の委員会を開催する。				
委員	8 名				
委員会	開催日程		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月末	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	1 月下旬	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取
任期	3 年間（運営第 6 期 R4 ～ 6 年度）				
	【備考】 行政関係者委員については管内県の環境教育担当課長へ委嘱し、任期は 1 年とする。		年度	R4 年度	R5 年度
			委嘱	岩手県 宮城県	秋田県 山形県
					R6 年度 青森県 福島県

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	イベント情報のほか関係機関の動向、公募や助成金情報等を Web サイトに掲載し広く情報発信を行う。				
	メールマガジン	月 2 回、定期的にメールマガジンを発行して情報発信を行うとともに Web サイトの閲覧を誘導する。				
	その他	運営第 6 期から紙媒体の運用を見直し「EPO 東北通信」の発行をとりやめた。事業ごとのとりまとめ資料等を作成し、PDF データを事業紹介ツールとして活用する。				
相談対応等	環境教育等促進法第 19 条 1 項に基づく国の地域 ESD 拠点として、各種情報紹介及び相談に対応し、必要に応じた助言を行うとともに各種会合に参加する。また必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場作り、過去に対応した案件のフォローアップを行う。					
全国事業に関わる業務	開催日程			形式	開催地	会議の目的
	全国 EPO 連絡会議	第 1 回	6 月	対面	東京都	地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的とする。
		第 2 回	10 月	対面	愛知県	
		第 3 回	1 月	対面	東京都	
	協働取組の効果最大化に関する検討会議		未定	対面	東京都	協働取組の効果最大化に関する検討を行う。
情報交換会		未定	対面	東京都	EPO ネットワークの強化に関するミーティングを行う。	
東北地方環境事務所との協働	開催日程			形式	開催地	会議の目的
	事業運営会議	第 1 回	5 月	対面	仙台市内	業務の進捗について東北地方環境事務所と定期的な共有の場を設け、事業内容について意見交換を行う。
		第 2 回	7 月			
		第 3 回	9 月			
		第 4 回	11 月			
		第 5 回	1 月			
施設の維持・管理					・開館時間 9:00 ～ 17:30 ・民間団体等が環境保全に関する情報交換や交流を図る機会を増やすため、会議スペースの供用、他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保及び関連図書の貸出等を行う。	

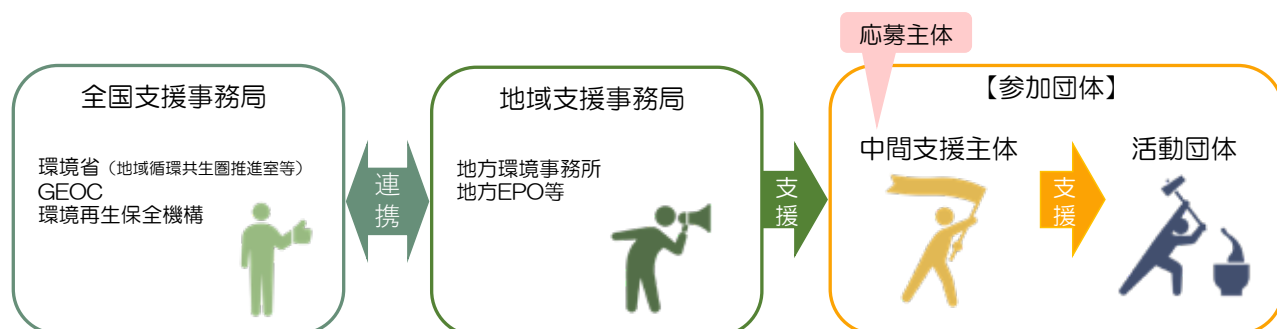
地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業				
概要	「循環経済（サーキュラーエコノミー）」の実現に向けた資源有効利用促進法の改正に伴い、廃棄物の削減とリサイクルの推進を目指す循環型社会形成推進基本計画が改正される。取り組みの重要性の理解と社会実装に向けた学びの場を設け、地域内に波及させるための対話の促進を図る。			
達成目標	サーキュラーエコノミーに関する認知が広がっていないことから、認知および理解度の向上を目指す。また、具体的な取り組み事例を提示し、循環経済への移行に向けて理解の深化を図る。			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
セミナー	未定	ハイブリット	仙台市内	循環経済（サーキュラーエコノミー）をテーマとしたセミナーを開催する。循環型社会の構築に向けて、自治体を中心に地域の主体に参加を呼びかける。

（３）地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

概要	令和 6 年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業において、活動に取り組む団体に対して支援を行う主体が必要な機能を獲得し、地域循環共生圏づくりの中間支援を実施できるようになるための支援を行う。必要に応じて中間支援主体が支援する団体も含めて支援を行う。				
		時期	内容		
	ヒアリング	4 月	中間支援の内容についてヒアリングおよび支援計画の打合せを行い、結果を GEOC へ報告する。		
	伴走支援	4 月 ～ 3 月	地域循環共生圏づくりの考え方に基づく中間支援機能について、中間支援主体が実践を通じて理解及び習得できるよう、東北地方環境事務所と共に組織する地方支援事務局として助言を行う。		
	打合せ等	年 3 回 程度	必要に応じて活動団体と中間支援主体との打合せおよび支援を行う。		
会議名等	開催日程	形式	開催地	内容	
(1) 地方支援事務局（地方環境事務所、地方 EPO）が主催する会議					
キックオフ ミーティング	6 月	対面	仙台市内	活動団体がブロックごとに集まり、打合せを踏まえて修正した活動計画を発表する。	
中間共有会	9 ～ 11 月	対面	仙台市内	活動団体が進捗を共有し、相互に学び合う場として共有会を開催する。	
(2) 活動団体が主催する会議への参加					
ステークホルダー ミーティング	7 ～ 2 月	対面	①岩手県釜石市 ②宮城県石巻市 ③山形県西川町	活動団体が主催する地域のステークホルダーを対象としたミーティング(1 回以上)に参加する。 必要に応じて支援を行う。	
(3) 中間支援主体向け会議への参加					
中間支援主体 ギャザリング	第 1 回	5/29-30	オンライン	—	活動団体に対する支援計画を発表する。
	第 2 回	2 月	対面	東京都	1 年間の支援成果等を発表する。
(4) GEOC が主催する会議等への参加					
共有会	5/15	オンライン	—	年間計画、ヒアリング結果、中間支援ギャザリング企画の共有を行う。	
作業部会	第 1 回	8 月	対面	東京都	各地域の進捗状況について共有し、事業推進に向けた情報の整理・分析を行う。
	第 2 回	2 月			
事業検討会議	12 月	オンライン	—	事業進捗に関する情報共有、次年度に向けた意見交換を行う。	

会議名等	開催日程	形式	開催地	内容
(5) 次年度事業の参加団体の審査委員会				
応募団体のヒアリング	3月	オンライン	—	事前審査のためのヒアリングを行う。
審査委員会	3月	対面	仙台市内	次年度の参加団体の採択を検討する審査委員会を開催する。
(6) 卒業団体のフォローアップ調査				
フォローアップ調査	8～10月	オンライン	—	地域循環共生圏プラットフォーム事業（令和元年度～令和5年度）を卒業した活動団体のその後の取り組みについて進捗を把握するためのヒアリングを1件実施する。
(7) 地域循環共生圏創造に関する情報収集及び提供				
情報収集及び提供	地域での地域循環共生圏創造の担い手の情報及び活動状況について情報収集を行うとともに、地域循環共生圏創造の担い手に対して地域循環共生圏に関する情報を提供する。			

【採択団体】				
全国	東北	活動地域	団体名	
			【中間支援主体】	【活動団体】
26 団体	3 団体	岩手県釜石市	一般社団法人ゴジョる	株式会社かまいしDMC
		宮城県石巻市	一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	一般社団法人もものわ
		山形県西川町	西川町地域資源活用 イノベーション推進協議会	ツキノワ合同会社



(4) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【生物多様性】

概要	生物多様性の危機が国際的にも問題視され、「ネイチャーポジティブ」が新たな国際目標となった。TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）が設立され、大企業を中心にネイチャーポジティブ経営が求められている。国内では30by30ロードマップを公表（2022年4月）し、2023年度から国内独自の制度「自然共生サイト」の運用が始まっている。森里川海の恵みは自立・分散型社会を支える基盤であり、地域の身近な自然とステークホルダーをつなぐことは地域循環共生圏の創造に資するものであると捉え、身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会を開催し、パートナーシップを促進する。			
達成目標	自然共生サイト登録を増やしていく一環として、第一次産業における生物多様性付加価値を中心に話題提供を行い、食糧生産分野での生物多様性の重要性と自然共生サイト登録のメリットに対する理解を深める。			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
フォーラムとポスター展	6/13-16	対面	仙台市内	人と自然が育み合う持続可能な自然共生社会の実現に向けたマルチステークホルダーの共創の場づくり醸成を目指し、ネイチャーポジティブ・アクションのポスター展及びフォーラムを開催する。
フォーラム	未定	対面	仙台市内	自然環境の保全・再生、消費の削減や持続可能な生産が求められるネイチャーポジティブについて、普及啓発を目的としたフォーラムを開催する。



30by30



(5) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化【みちのく薪びと祭り】

概要	持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を生かした環境活動の促進を目的として創設したネットワークの更なる強化を目指すとともに、ネットワークを構成する団体等の活動や取組みを地域循環共生圏の創造へとつなげるため、交流会「みちのく薪びと祭り」を開催する。森林の適正な管理をしながら間伐材等をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合う交流の機会を設けることで参加主体の活動の活性化を図る。			
達成目標	- 薪の活用を基軸に地域の環境と社会と経済が循環する社会の在り方について考え、議論し、各地域の取組みに新たな視座を加えることで地域循環共生圏の実現に貢献する。 「次世代の担い手」に焦点を当て新たなステークホルダーの巻き込みを図り、若手や学生、女性など、多様な主体の参加を得る。			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
みちのく薪びと祭り	10月頃	対面	宮城県川崎町	相互交流と学び合いを目的とし、東北内の薪に関する活動を行っている団体が一堂に会して活動の共有、情報交換、開催地の視察を行う。
キーパーソン会議	5月	オンライン	仙台市内	「みちのく薪びと祭り」の協働による企画運営を目指して、企画の方向性や参加主体の役割分担について協議する。

2. 東北地方 ESD 活動支援センター

(1) 地方活動支援企画運営委員会の開催運営等

概要	ESD の推進に取り組んできた自治体・企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全に取り組んでいる専門家からなる委員会を設置し、年 2 回の委員会を開催する。				
委員	8 名				
委員会	開催日程		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月末	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	1 月下旬	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取
任期	3 年間（運営第 6 期 R4 ～ 6 年度） 【備考】行政関係者委員については EPO 東北事業検討委員と兼任とし、任期は 1 年とする。				

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	地域の ESD 活動事例や地域の ESD の推進に役立つ情報発信をするために、地域情報を収集・整理し、全国センターが運用する Web サイト内に情報を掲載する。		
	メールマガジン	月 2 回、定期的にメールマガジンを発行して情報発信を行うとともに Web サイトの閲覧を誘導する。		
	パンフレット	地域の ESD 活動実践者等による ESD 推進に資することを目的として、地域に密着した情報や事例等を掲載した地方センターのパンフレットを作成する。PDF パンフレットを Web サイトで公開し、本年度掲載したものは「活動レポート 2024」として冊子にとりまとめて印刷する。		
相談対応等	地域の ESD 活動実践者や実践団体等から ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は適切に対応する。			

ESD 地域 コーディネーター	学校教育関係の実践者等をコーディネーターとして配置し、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に地域の取組みを支援することにより、ESD 活動の普及に努める。				
	活動地域	氏名	備考		
	青森県	貝森毅彦氏	青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長		
	宮城県	内藤恵子氏	公益社団法人仙台ユネスコ協会副会長・ESD 推進委員長、元小学校校長		
	福島県	齋藤修一氏	元只見町教育委員会教育長		
	【定例ミーティング】				
	開催日程		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月	対面	仙台市内	活動内容の共有と ESD 活動の推進に向けた情報交換を行う。なお、第 2 回・第 3 回は外部講師を招いた勉強会を企画する。
	第 2 回	8 月	オンライン	—	
	第 3 回	12 月	オンライン	—	
	第 4 回	3 月	対面	仙台市内	

(3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供【ESDfor2030 学び合いプロジェクト】

概要	気候変動時代の ESD を促進するために、ESD 推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画する。実施にあたっては ESD 地域コーディネーターおよび地域 ESD 推進拠点と連携し、市民施設における気候変動教育の在り方を検討する。			
達成目標	- ESD 地域コーディネーターと地域 ESD 推進拠点が連携し、地域内で継続的に展開される体制を構築しロールモデルを創出する。 - 市民施設において、一般市民に気候変動を啓発するプログラム作成のノウハウやプロセスの整理を行う。			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
勉強会①	未定	対面	仙台市内	市民施設に対して地域住民を対象とし気候変動教育をテーマとする講座作りを提案し、施設スタッフの勉強会および講座の実践を行う。
勉強会②	未定	対面	仙台市内	
実践活動	11 月	対面	仙台市内	
意見交換会	12 月	オンライン	—	ESD 実践者や企画運営委員を交えてプロジェクトを振り返り、汎用性や改善点について意見交換を行う。
作業部会 (2 回)	①未定 ②未定	対面	東京都	気候変動を切り口とした ESD を推進するに当たってのノウハウや課題を共有し、方策を検討するために全国センターが開催する会合に参加し議論する。

(4) 東北 ESD/SDGs フォーラム

概要	ESD 実践者および関心のある層が ESD/SDGs について理解を深め、実践事例を基に知見やノウハウを学ぶことで地域の ESD 活動の促進に貢献する。また、東北地域の ESD 事例を広く発信する機会と捉え、多様な主体との連携・協働による企画運営によって地域ネットワークの構築を支援する。			
達成目標	- 東北地方における ESD 活動の実践者及び関心層に対して ESD/SDGs を学ぶ機会を提供し、ESD 活動の推進を支援する。 (企画内容、対象に合わせて達成目標を追加する)			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
東北 ESD/SDGs フォーラム	未定	未定	福島県	(ESD 地域コーディネーターを中心に、地域の主体との合意形成によって決定する)

(5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援

概要	地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携を図ることにより、地域における ESD 活動を支援する。また、ESD 活動実践者に対する情報発信や調整等を行うとともに、地域 ESD 拠点の登録手続きにおいては登録審査を行う全国センターに情報提供を行う。			
達成目標	- 各事業を実施する中で活動情報の共有および地域 ESD 拠点間の連携を働きかけ、ESD 活動を支援する。 - 地域 ESD 拠点に対し取組みやイベント情報の提供を定期的に働きかけ、東北地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトやメールマガジン、パンフレットに掲載し、活動の周知を行う。			
登録数	全国 187 件／東北 21 件			

(6) ESD 研修会

概要	地域からの ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的に、地域の ESD 実践者等を対象に、ESD 関連の有識者又は先進的実践者等による講演及び意見交換を行う研修会を開催する。			
達成目標	- ESD 活動の実践者及び関心層に対して ESD/SDGs を学ぶ機会を提供し、ESD 活動の推進を支援する。 - 開催エリアにおける ESD ネットワーク構築を支援する。 (企画内容、対象に合わせて達成目標を追加する)			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
ESD 研修会①	未定	未定	青森県	
ESD 研修会②	未定	未定	宮城県	
ESD 研修会③	未定	未定	福島県	

(7) 全国センターとの連携協力の推進等

概要	全国センターが実施する意見交換会及び企画運営委員会に可能な限り参加する。また、全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供、ESD 推進ネットワーク活動状況調査等に積極的に協力・対応する。					
達成目標	・全国センターの求めに応じて各種会合への参加、情報提供や資料作成・提供に対応する。 ・全国及び地方 ESD 活動支援センターの事業について積極的に情報収集を行い、取組み手法等について次年度事業の参考とする。					
会合等	開催日程			形式	開催地	会議の目的
	ESD 全国フォーラム		12 月	対面	東京都	ESD 活動を推進する関係者が一堂に集い、最新の国際動向・国内動向・ネットワーク形成の状況を共有し、全国各地の実践事例を学ぶ機会として開催される。
	ESD 活動支援センター連絡会	第 1 回	5 月	対面	東京都	地方 ESD 活動支援センター間の連携強化と情報共有を目的とする。
		第 2 回	1 月	対面	東京都	
	全国協力団体意見交換会	第 1 回	未定	オンライン	—	全国的なネットワークを有する団体同士の連携を深める機ことを目的とする。
		第 2 回	未定	オンライン	—	
	全国センター企画運営委員会	第 1 回	未定	オンライン	—	全国センターの事業計画及び事業報告に対する意見聴取が行われる。
		第 2 回	未定	オンライン	—	

運営第 6 期

令和 4 年度（2022 年度）～令和 6 年度（2024 年度）

令和 6 年度 事業報告

【Ⅲ．事業報告】 1. 令和6年度 事業総括

令和6年5月21日に第六次環境基本計画が閣議決定され、環境保全を通じた、現在および将来の国民一人一人の「ウェルビーイング／高い生活の質」の実現を目指すこと、地下資源依存から地上資源基調の経済社会システムへ転換することがビジョンとして打ち出し、「新たな成長」の概念が提唱された。世界が直面している気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの世界的危機に対し、経済社会システムの変革と、環境収容力を守り環境の質を上げることによって、経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」を実現すること、「環境価値」を活用した経済全体の高付加価値化のためにスピード感とスケール感をもって「新たな成長」を実践・実装していくことを計画している。環境政策を起点とした、経済・社会的課題の同時解決をミッションとして掲げ、政府による環境教育、人的資本投資、中間支援組織の強化などが明記された。様々な政策の中で「中間支援機能」が注目されており、東北環境パートナーシップオフィスおよび東北地方ESD活動支援センターが持つべき機能、果たすべき役割について改めて見つめ直し、取組みの強化に向けた戦略が求められる。

【EPO 東北】

●多様なテーマと連携・協働体制について

環境省の各課にEPOの存在が認知され、資源循環課や生物多様性保全室など、これまで連携の機会がなかった部署との事業連携が生まれた。これを受けてEPO事業で取り扱うテーマは地域循環共生圏を軸に脱炭素、生物多様性、サーキュラーエコノミー等、従来と比べて広範になった。全国EPO連絡会では他部署との連携にあたりEPOが持つ機能、役割についての認識不足が指摘されている。事業の複雑化、高度化も指摘されており、EPO東北が担う機能・役割についてPRするための発信のあり方は見直しが必要となっている。

令和6年度は新しい情報発信の試行としてメディア連携を進めてきた。今後も他分野及び専門家との連携・協働により、新しい視点を得ながら時代に即した事業展開が求められる。

●地域循環共生圏づくり

令和元年度から令和5年度まで実施した「環境で地域を元気にする地域循環共生圏プラットフォーム事業」の成果や経験を踏まえ、令和6年度から地域循環共生圏づくりの中間支援を行うことができる主体の育成を主目的とした「地域循環共生圏づくり支援体制構築事業」が開始された。地方環境事務所及び環境パートナーシップオフィスによる地方支援事務局は、地域循環共生圏づくりに取り組む活動団体と、取組みを伴走支援する中間支援主体の成長を支援する立場となり、事業に対応できる情報・知識・スキルの獲得と蓄積が大きなテーマとなった。参加団体※が取組み状況をどのように認知しているかを客観的に見つめること、本質的な課題を捉えて多角的・論理的に考える批判的思考の不足が反省点として捉えており、より一層のスキル向上が今後の課題となる。

※参加団体：P46 参照

【東北地方 ESD 活動支援センター】

● ESD 地域コーディネーター

東北独自の取組みとして「ESD 地域コーディネーター」制度を導入して3年目を迎えた。令和6年度はESD 地域コーディネーターが東北地方ESD活動支援センター事業に参画し、協働で事業実施に取組むスタイルを試行した。地域の関係者に対する丁寧なアプローチとフォローをESD 地域コーディネーターが担うことで、より重層的なネットワークづくりが推進できた。また、今後の事業展開を見据えた戦略を考えながら事業を実施することができた。現在は青森・宮城・福島の3県にESD 地域コーディネーターがいるが、今後は岩手・秋田・山形でも同様の事業展開ができるよう、キーパーソンの発掘とネットワークの拡充が課題となる。

●東北 ESD / SDGs フォーラム

令和6年度はESD 地域コーディネーターが重要な主体を担いながら福島県只見町での開催に至った。地域住民の参加、東北地方ESD活動支援センターおよびEPO東北関係者の参加があり、住民に対して地域の取組を改めて発信ができたこと、関係者に東北地方ESD活動支援センター事業の発信ができたことは大きな成果と言える。一方で東北各地からの新たな層の参加はなく、リアルタイムでのオンライン配信では視聴者数も伸び悩んだ。これまで毎年実施形態を変えながらフォーラムを開催してきたが、情報収集および発信のスタイルが多様化する中で、改めてフォーラムの位置づけや役割、対象を見直し、東北地方ESD活動支援センターが何を提供できるのか、大きく見直す時期にきている。

●第7期に向けて

これまでに培ったネットワーク基盤を活用しながら新しい主体とも連携し、重層的なネットワークの構築に取り組んだ。地域リソースの活用、外部との連携、ESD 地域コーディネーターとの連携・協働により活動の幅を広げ、また新しい運営のあり方を試行し、運営第7期に向けたノウハウの蓄積、課題の整理ができた。

一方で環境課題への対応はより緊急性を増し、環境政策を起点とした地域課題の同時解決性や取組みの推進に向けた中間支援機能への注目が高まっている。改めてEPO東北や東北地方ESD活動支援センターの担う役割を見直し、事務局に蓄積すべき技能を明らかにした上で習得に励むこと、事務局としての機能向上を図ることが運営第7期の課題となる。

【Ⅲ. 事業報告】 2. 事業実施一覧

東北環境パートナーシップオフィス運営業務

(1) 事業検討委員会の開催運営等

委員	8 名				
委員会	開催日		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月 27 日 (月)	対面を中心とした	宮城県 仙台市	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	2 月 3 日 (月)	ハイブリット形式		事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト		随時更新、期間限定アーカイブ動画の配信			
	メールマガジン		月 2 回配信、臨時号 1 回			
	その他		みちのく薪びと祭りとりまとめ資料 PDF データを事業紹介ツールとして活用			
相談対応等	相談件数		69 件		※対話の機会数：情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等	
	対話の機会数		88 件			
	共催事業		1 件			
	後援		0 件			
	協力・活動支援		9 件			
	委員協力		4 件			
全国事業に関わる業務	開催日			形式	開催地	内容
	全国 EPO 連絡会議	第 1 回	6 月 12 日（水） ～ 13 日（木）	対面中心の ハイブリット	東京都 渋谷区	各地方 EPO が共通で実施する事業について合意形成が行われた。
		第 2 回	10 月 1 日（火） ～ 3 日（木）		富山県 富山市	EPO の協働をテーマにグループディスカッションを実施し、意識の共有化が行われた。
		第 3 回	1 月 16 日（木） ～ 17 日（金）		東京都 渋谷区	次年度以降の事業運営に関する意見交換が行われた。
	協働取組の効果最大化に関する検討会議		9 月 20 日（金）	Web 会議	-	地域での協働プロセス実践に対する理解を深めることを目的に意見交換が行われた。
	情報交換会		12 月 20 日（金）	対面中心の ハイブリット	東京都 渋谷区	EPO が様々なトピックについて勉強することを目的に話題提供と意見交換が行われた。
	東北地方環境事務所との協働	開催日			形式	開催地
事業運営会議		第 1 回	5 月 9 日（木）	対面	宮城県 仙台市	業務の進捗について東北地方環境事務所と定期的な共有の場を設け、事業内容について意見交換を行った。
		第 2 回	7 月 10 日（水）			
		第 3 回	9 月 2 日（月）			
		第 4 回	11 月 5 日（火）			
		第 5 回	1 月 24 日（火）			
施設の維持・管理	開館状況		【開館日数】 238.5 日、【来場者数】 365 人			
	会議室の提供		【利用件数】 111 回、【利用者数】 470 人			
	図書資料等の提供		【提供実績】 37 回、【収集資料】 66 件			

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

概要	①循環型社会形成推進基本計画は、循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定めるもので、令和6年8月2日に第五次循環型社会形成推進基本計画が閣議決定された。取り組みの重要性の理解と社会実装に向けた学びの場を設け、地域内に波及させるための対話の促進を図った。 ②③脱炭素経営をテーマに多様な主体との連携によるセミナーを開催し、ネットワークの拡充を図った。				
催事	収録日	形式	開催地	-	内容
①セミナー動画 サーキュラーエコノミー - 循環基本計画と 東北の事例を知る -	1月21日（火）	対面中心	宮城県 仙台市	-	循環型社会形成推進基本計画の改正に伴い、 サーキュラーエコノミーをテーマとするセミ ナーを収録し動画配信を行った。
	1月29日（水）	Web 会議	-	-	
	【動画配信】3ヶ月間の限定公開 3月1日（土）～5月31日（土）				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
②セミナー 脱炭素経営に関する セミナー	12月3日（火）	対面	宮城県 仙台市	44 名	金融機関および環境団体との協働により、宮 城県内の中小企業経営者や環境部署担当者な どを対象としたセミナーを環境ネットやまが たと共に開催した。
③セミナー 中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営 セミナー in 青森	1月17日（金）	Web 会議	青森県 青森市	101 名	R4 年度に青森市・弘前市で、R5 年度に八 戸市で開催したセミナーのフォローアップと して支援した。

（3）地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

概要	令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業において、活動に取り組む団体に対して支援を行う主体が必要な機能を獲得し、地域循環共生圏づくりの中間支援を実施できるようになるための支援を行った。
----	---

【採択団体】 東北 3案件／全国 26案件			
活動地域	団体名		テーマ
	【中間支援主体】	【活動団体】	
岩手県 釜石市	一般社団法人ゴジョる	株式会社かまいしDMC	豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅 Blue-Green-Sustainable Journey 持続可能な観光プラットフォーム構築
宮城県 石巻市	一般社団法人 フィッシャー・マン・ジャパン	一般社団法人もものわ	森と海を繋ぐ関係人口の創出と 持続的な環境保全活動の推進
山形県 西川町	西川町地域資源活用 イノベーション推進協議会	ツキノワ合同会社	雪室による地域産業のリブランディング

1) 中間支援機能の担い手育成					
中間支援主体	定期 打合せ	ステークホルダーミーティング（活動団体主催）			
		開催日	形式	開催地	内容
一般社団法人ゴジョる	4回	1月13日 (月・祝)	対面	岩手県 釜石市	地域で活動する主要団体を対象とし、各団体の活動紹介と情報交流を行った。
一般社団法人 フィッシャー・マン・ジャパン	7回	1月24日(金)	対面	宮城県 石巻市	プロジェクトのコアメンバーを対象とし、情報のインプットを行った上で地域ビジョンを議論するミーティングを行った。
西川町地域資源活用 イノベーション推進協議会	3回	1月31日(金)	対面	山形県 西川町	事業を担う地域のプレイヤーを中心に、地域おこし協力隊など若手を交えたワークショップを行った。

2) 会議等					
会議名等		開催日	形式	開催地	内容
(1) 地方支援事務局（地方環境事務所、地方 EPO）が主催する会議					
キックオフミーティング		6月7日（金）	対面中心のハイブリット	宮城県仙台市	活動のヒントや気づきを得ることを目的にキックオフミーティングを行った。
中間共有会		9月12日（木）	対面	宮城県仙台市	計画のブラッシュアップを後押しすることを目的に中間共有会を開催した。
(2) GEOC が主催する会議等への参加					
中間支援主体 ギャザリング	第 1 回	5月30日（木） ～31日（金）	Web 会議	—	中間支援機能についてのインプットおよび中間支援主体による活動紹介が行われた。
	第 2 回	2月27日（木） ～28日（金）	対面	東京都	1 年間の活動報告および参加団体同士の意見交換・交流が行われた。
共有会		5月15日（水）	Web 会議	—	年間計画、中間支援主体へのヒアリング結果を共有し意見交換が行われた。
作業部会に向けた意見交換会		8月27日（火）	Web 会議	—	EPO 間の情報共有の機会として設けられた有志会合で、所感などを共有し作業部会に向けた意識合わせと意見交換が行われた。
作業部会	第 1 回	9月4日（水）	対面中心のハイブリット	東京都	グループディスカッション形式で事業の整理の仕方について意見交換が行われた。
	第 2 回	1月30日（木）			
事業検討会議に向けた意見交換会		12月6日（金）	Web 会議	—	EPO 間の情報共有の機会として設けられた有志会合で、事業検討会議に向けた意見交換が行われた。
		12月17日（火）	対面	東京都	
事業検討会議		12月18日（水）	対面中心のハイブリット	東京都	事業進捗に関する情報共有、次年度に向けた意見交換を行われた。
有識者会議	第 1 回	7月18日（木）	（非公開）	—	事業の方向性や評価方法について意見交換が行われた。
	第 2 回	9月30日（月）	オンライン視聴	—	事務局から出された成果を捉える視点の提案に対して意見交換が行われた。
	第 3 回	2月18日（火）	オンライン視聴	—	各事業の進捗および実施報告に対して意見交換が行われた。
(3) 次年度事業の参加団体の審査委員会					
継続審査委員会		12月9日（月）	Web 会議	—	事業継続を希望する参加団体の継続審査を行う委員会を開催した。
審査委員会		—	—	—	東北は 3 案件が継続のため新規募集なし（審査委員会の開催不要）。
(4) 卒業団体のフォローアップ調査					
フォローアップ調査		日承循環合同会社（山形県鶴岡市）			
会議名等		開催日	形式	開催地	内容
ヒアリング		2月4日（火）	Web 会議	—	取組み当時のことや現在の状況、今後の展開を確認するヒアリングを行った。

(4) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【生物多様性】

概要	森里川海の恵みは自立・分散型社会を支える基盤であり、地域の身近な自然とステークホルダーをつなぐことは地域循環共生圏の創造に資するものであると捉え、身近な自然資本を活用した地域づくりに関するフォーラムおよび動画配信を行った。				
催事	開催日 / 収録日	形式	開催地	参加	内容
①フォーラム ビオトープフォーラム in 仙台 2024	6月14日（金）	対面	宮城県 仙台市	110名	ビオトープを通じた自然再生・環境保全などの活動紹介および生物多様性をテーマとする講演を行った。
②セミナー動画 ネイチャーポジティブ - 農林業と自然が紡ぐ、 持続可能な地域づくりの 可能性 -	1月19日（日） 【動画配信】 3月1日（土）～3月31日（月）	対面	宮城県 仙台市	-	ネイチャーポジティブを地域の文脈に落とし込むヒントを探ることをテーマに、第一次産業に関わる主体を招致してパネルディスカッションを行った。

(5) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化【東北独自】【みちのく薪びと祭り】

概要	森林の適正な管理をしながら間伐材等をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合う交流の機会としてみちのく薪びと祭りを開催した。「次世代の担い手」に焦点を当て、開催地の団体が運営主体を担うスタイルを試行した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
キーパーソン会議	7月22日（月）	Web 会議	—	16名	キーパーソンの近況を共有し、R6 年度企画の意見交換を行った。
みちのく 薪びと祭り	10月14日 （月・祝） ～15日（火）	対面	宮城県 川崎町	約 200名	相互交流と学び合いを目的とし、東北内の薪に関する活動を行っている団体が一堂に会して活動の共有・情報交換・開催地の視察を行った。



地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間共有会（R6/9/12）



ビオトープフォーラム in 仙台 2024（R6/6/14）

東北地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1) 地方活動支援企画運営委員会の開催運営等

委員	8 名				
委員会	開催日		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月 27 日(月)	対面を中心とした	宮城県 仙台市	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	2 月 3 日 (月)	ハイブリット形式		事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	随時更新、東北の ESD 事例紹介を掲載			
	メールマガジン	月 2 回配信、臨時号 1 回			
	パンフレット	東北地方 ESD 活動支援センター及び地域 ESD 活動推進拠点の活動を紹介する活動レポート 2024 を作成した。 【地域 ESD 活動推進拠点】掲載：9 団体 【冊子】800 部			
相談対応等	相談件数	28 件			
	対話の機会数	48 件			
	共催事業	3 件			
	後援	2 件			
	協力・活動支援	4 件			
	その他（会議参加）	1 件			
ESD 地域 コーディネーター	学校教育関係の実践者等をコーディネーターとして配置し、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に地域の取組みを支援することにより、ESD 活動の普及に努めた。				
	活動地域	氏名	備考		
	青森県	貝森毅彦氏	青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長		
	宮城県	内藤恵子氏	公益社団法人仙台ユネスコ協会副会長・ESD 推進委員長、元小学校校長		
	福島県	齋藤修一氏	元只見町教育委員会教育長		
	【定例ミーティング】				
	開催日		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月 28 日（火）	対面	宮城県 仙台市	東北 ESD センターの事業計画、各コーディネーターの活動予定を共有し意見交換を行った。
	第 2 回	12 月 20 日（金）	対面	宮城県 仙台市	企業の ESD をテーマにゲストスピーカーを招き、意見交換を行った。
	第 3 回	12 月 21 日（土）	対面	宮城県 仙台市	ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会児童生徒の探求型学習・課題研究発表へ参加し、ESD 実践校の事例を学んだ。
第 4 回	3 月 27 日（木）	対面	宮城県 仙台市	2024 年度の活動共有会を行った。	

(3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供【ESDfor2030 学び合いプロジェクト】

概要		気候変動時代の ESD を促進するために、ESD 推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画した。実施にあたっては ESD 地域コーディネーターと協働し、市民施設において気候変動を啓発するプログラム作成のノウハウやプロセスの整理に取り組んだ。				
催事		開催日	形式	開催地	参加	内容
勉強会	第 1 回	9 月 21 日（土）	対面	宮城県 仙台市	18 名	市民センタースタッフを対象に「SDGs 市民講座」の作り方を考える講座を開催した。
	第 2 回	10 月 8 日（火）	対面		12 名	企画を組み立てるワークショップを実施した。個人ワークを行いながら学びを深めた。
	第 3 回	10 月 29 日（火）	対面		12 名	グループワークで企画を考えるワークショップを実施した。
企画 打合せ	①	11 月 9 日（土）	対面		7 名	実践活動として実施する防災講座の企画
	②	11 月 23 日（土）	対面		6 名	フォローアップを行った。
実践活動		2 月 1 日（土）	対面		66 名	市民センタースタッフ・地域関係者が企画した講座「防災・減災を学ぼう」を実施した。
意見交換会		3 月 13 日（木）	ハイブリット 会議	-	15 名	プロジェクト関係者で実施内容を振り返り、成果と課題を整理する意見交換を実施した。
作業部会	第 1 回	7 月 25 日（木）	対面	東京都 渋谷区	53 名	各地方センターの進捗状況の共有を行い、プロジェクトに対して専門家からご意見をいただいた。
	第 2 回	2 月 25 日（火）	対面	東京都 渋谷区	35 名	各地方センターが今年度のプロジェクト実施報告を行い、今後の気候変動教育について意見交換を行った。
活動の報告		12 月 1 日（土）	対面	東京都 渋谷区	134 名 オンライン 58 名	ESD 全国フォーラムのポスターセッションに参加し、学び合いプロジェクトの発表を行った。

(4) 東北 ESD/SDGs フォーラムの開催

概要	福島県只見町においてホールエリアで取り組む ESD をテーマに取り上げたフォーラムを開催した。企画運営においては地域 ESD コーディネーターとの協働によって地域の多様な主体の巻き込みを図り、只見伝承製品の体験活動を実施した。また、只見町 ESD 公開授業研究会の同時開催とした。					
東北 ESD/SDGs フォーラム 2024in 福島只見						
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容	
フォーラム ホールエリアとしての ESD の推進を目指して	11 月 14 日（木） ～ 15 日（金）	ハイブリット 会議	福島県 只見町	会場 90 名	1 日目に只見伝承製品の体験活動を実施し、2 日目にフォーラムを開催した。気象予報士による基調講演の他、只見町の工場や農園、公民館、伝統工芸など地域の様々な主体による取組紹介を行った。	
	【動画配信】12 月 26 日（木）～ 1 月 31 日（金） 【視聴回数】55 回					

(5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援

概要	地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携を図ることにより、地域における ESD 活動を支援した。また、地域 ESD 拠点の ESD 活動を広く発信する目的で PDF パンフレットを作成してウェブサイトに掲載し、「活動レポート 2024」を発行した。
登録数	東北 21 件 前年比± 0 件 / 全国 199 件 前年比+ 2 件

(6) ESD 研修会【東北独自】

概要	ESD 地域コーディネーターとの連携・協働により、地域における ESD 活動の推進を目指して ESD 研修会を開催した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
ESD 研修会① ゲストティーチャーに 聞く気候変動の影響	9 月 18 日(水)	対面	青森県 青森市	70 名	青森市立堤小学校の 6 学年を対象にリンゴ農家・ホタテ漁師・種苗店の方に気候変動の影響を学ぶ授業を実施した。 ※昨年度事業フォローアップ
ESD 研修会② 会津若松市立第六中学校 SDGs 授業	12 月 3 日(火)	対面	福島県 会津若松市	95 名	1 ～ 3 年生の生徒を対象に、SDGs の基礎知識を学び自分たちの普段の行動と結びつける授業を実施した。
ESD 研修会③ ゼロカーボンに向けた ユース活動の 意見交換会	3 月 7 日(金)	ハイブリット 会議	—	22 名	青森県、岩手県の環境活動・ゼロカーボンに向けた活動を行うユース（高校生・大学生）の意見交換会を実施した。

(7) 全国センターとの連携協力の推進等

概要	全国センターが実施する意見交換会及び企画運営委員会に参加した。また、全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供、ESD 推進ネットワーク活動状況調査等に積極的に協力・対応した。				
催事		開催日	形式	開催地	内容
ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム		12 月 1 日（日）	対面	東京都 渋谷区	ESD に関する最新の動向を共有し、各地の実 践事例を学ぶ機会としてフォーラムが開催さ れた。
ESD 活動支援 センター連絡会	第 1 回	6 月 13 日（木）	対面中心の ハイブリット	東京都 渋谷区	各センターの事業予定を共有し、事業評価に ついて議論が行われた。
	第 2 回	1 月 17 日（金）			R6 年度の活動状況を共有し、次年度の方向 性について議論が行われた。
ESD 活動支援センター の今後の方策を考える意 見交換会		7 月 25 日（木）	対面	東京都 千代田 区	行政レビュー後のとりまとめコメントおよび 環境教育の取組に関する指標の検討会につい て共有し、意見交換が行われた。
全国協力団体 意見交換会	第 1 回	7 月 24 日（木）	対面	東京都 渋谷区	ESD に関する最新動向についての話題提供が あり、参加団体同士の交流が行われた。
	第 2 回	—	—	—	※第 2 回は ESD 推進ネットワーク全国フォー ラム（2/1）として実施
全国センター 企画運営委員会	第 1 回	6 月 27 日（木）	Web 会議	—	全国センターの事業計画及び事業報告に対す る意見聴取が行われる企画運営委員会を傍聴 した。
	第 2 回	2 月 28 日（金）	Web 会議	—	

(8) その他

概要	青森県ユネスコ協会から相談を受け、青森県内の 5 つのユネスコスクール（キャンディデート校 3 校含む）のネットワーク化を図る目的で、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムと共に青森県ユネスコスクール連絡協議会設立準備委員会に協力し、構成組織として参加した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
設立準備委員会	8 月 9 日(金)	対面	青森県 野辺地町	8 名	連絡協議会設立に向けて、青森県ユネスコ協会が構成組織を招集し準備会が行われた。
設立総会	1 月 9 日(木)	対面	青森県 八戸市	13 名	連絡協議会の設立総会が開催され、協議会の要綱の検討、事業計画の確認が行われた。

その他 企業等との協働事業

(1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

概要	環境再生保全機構地球環境基金との協定に基づき、情報共有や意見交換、事業連携を行った。地球環境基金は 1993 年の創設から 30 年が経過する。地域の課題や活動実態の把握、今後の支援策の検討が行われており、本年度は東北地区で意見交換の場が設けられた。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
地球環境基金主催 EPO 連絡会	7 月 22 日 (月)	対面	神奈川県 川崎市	38 名	2025 年度助成金の募集や地域課題調査等のパイロット事業について意見交換が行われた。
東北地区高校生 SDGs セミナー	8 月 1 日 (木)	対面中心のハイブリット	宮城県 仙台市	18 校	東北 6 県の高校 18 校が参加し、基調講演とワークショップ型の意見交換が行われた。
2025 年度地球環境基金助成金説明会 (東北地区)	10 月 28 日 (月)	Web 会議	—	45 名	地球環境基金の概要、助成メニューの紹介、助成団体からの話題提供を行った。

(3) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト

概要	地球環境基金の助成を受けて (一社) あきた地球環境会議が実施するプログラムで、サバ州と日本の高校生を対象に環境リーダーを育成することを目指し、プラスチックごみに関する現地調査及び啓発、海洋保全をテーマとした環境教育が行われた。EPO 東北は会議構成員として参画し、現地プログラムに対する運営協力を行った。				
実施期間	令和 5 年度～令和 7 年度				
マレーシア 訪問	渡航期間	2024 年 7 月 29 日 (月) ～ 8 月 8 日 (木)			
	内容	①表敬訪問 ②現地視察および調査 ③環境教育の実践 (6 校) ④海洋生態系と環境問題に関する研修 ⑤ワーキングチーム会議			
日本 来日	来日期間	2025 年 1 月 21 日 (火) ～ 28 日 (火)			
	内容	①表敬訪問 ②ワーキングチーム会議 ③環境保全取組・環境教育視察			



ESDfor2030 学び合いプロジェクト 勉強会第 1 回 (R6/9/21)



東北 ESD/SDGs フォーラム 2024in 福島只見 (R6/11/15)

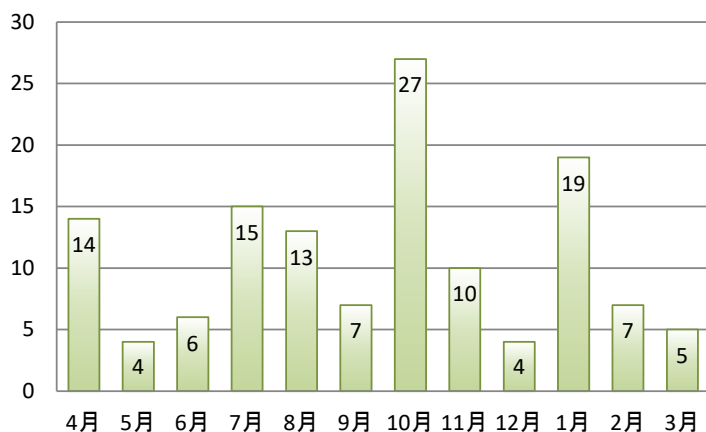
【Ⅲ. 事業報告】 3. 出張・外出のべ日数

各地の EPO や ESD 活動支援センターが参加する会合が対面を中心に開催されるようになり、コロナ前と同程度に東北外へ出張する機会が増えた。Web 会議を活用した打ち合わせや情報交換の機会もも日常化し、事業における企画調整では対面・Web 会議を適宜選択しながら対応した。

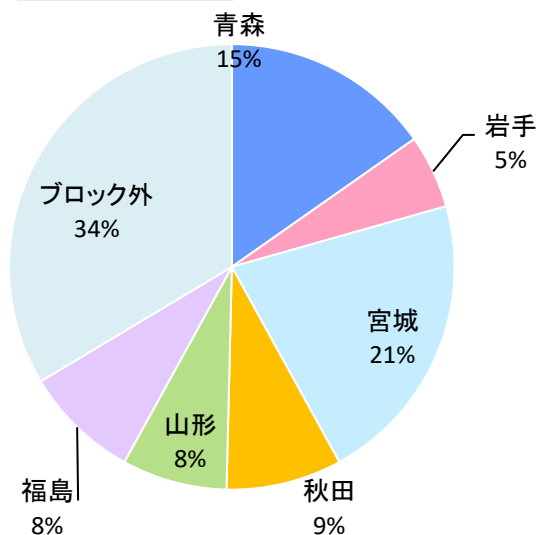
①出張・外出のべ日数

のべ 131 日

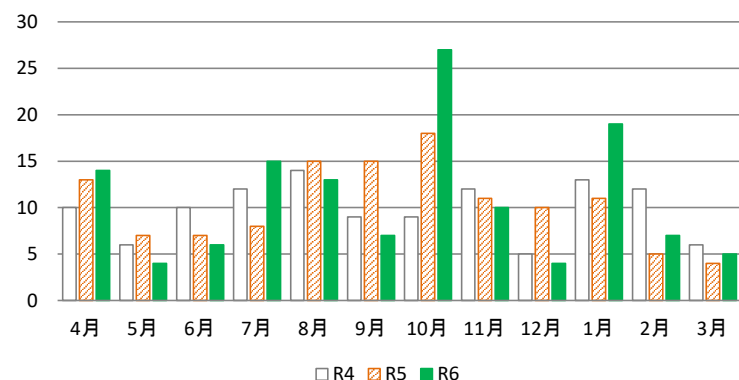
【月別のべ出張・外出】



【地域別訪問状況】



【3 年間における比較】



ESD 研修会①ゲストティーチャーに聞く気候変動の影響 (R6/9/18)



東北地区高校生 SDGs セミナー (R6/8/1)

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告 (1)EPO 東北業務

1) 運営

①事業検討委員会の開催運営（仕様書番号 4-（1）- ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	新妻弘明	東北大学名誉 教授、 日本 EIMY 研究所所長
副委員長	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部国際教育領 域 教授、ESD/ ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム 運営委員長
委員	小幡秀樹	(株) SKホールディングス 人事広報部 部長
	藤公晴	青森大学社会学部 教授、 青森大学 SDGs 研究センター長
	畠山順子	NPO 法人 あきたパートナーシップ 理事長
	渡部昌俊	ふくしま薪ネット
	笹木めぐみ	福島県生活環境部生活環境総務課 課長
	上村隆之	青森県環境エネルギー部環境政策 課 課長



第 1 回事業検討委員会（R5/5/27）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 1 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会

開催日	2024 年 5 月 27 日（月）
形式	対面中心のハイブリット
会場	HUMOS5 A ホール（宮城県仙台市）
参加者	26 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ① R6 年度事業計画について ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会 ① R6 年度事業計画について ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	・みちのく薪びと祭りの業務負担が大き く、業務の仕方を変えた方が良いのでは ないか。 ・生物多様性について、地域では同じ方向 性の団体がバラバラに活動していること が多い。 ・第 6 次環境基本計画の基本方針の中で ウェルビーイングの醸成が上位目標に掲 げられている。EPO 東北の事業の中でも どうつながっているか整理する必要があ り、東北らしいウェルビーイングとは何 かを考えて活動を展開してほしい。 ・今年度は啓発事業が多いが、EPO 東北 ではどのように感じているか。 ・基本方針に脱炭素の要素が見えてこない。 それぞれの事業計画の内容における相互 の関連性の視点から計画を捉え直して表 現してほしい。

第 2 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会

開催日	2025 年
形式	対面中心のハイブリット
会場	仙都会館 会議室 4F（宮城県仙台市）
参加者	30 名（委員 6 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 6 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会 ①令和 6 年度事業報告 ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	・共生圏づくり支援体制事業について、事 業年度を重ねるごとに事業を生み出し専 門性も増さなければいけない。どのタイ ミングで手を放すのか、どこまで寄り添 うのか、考えておく必要がある。 ・アンケートについて、問いを細かく丁寧 に取ったほうがよいのではないかと。EPO 東北への期待などを聞くことで、次の事 業を見出すための根拠になる。 ・事業連携における齟齬について、目標や 役割、ロードマップを明記したプロジェ クトデザインマトリクスを作成してはど うか。全体の進捗を明確に把握できる。 ・「協働」の最も大事なところは、「目的が どれだけ熱い思いで共有できるか」から スタートすることだ。 ・目的がないとパートナーシップは生まれ ない。「協働」のあり方をアップデートす るならば、重点エリアを決めた方が良い。

2) 基本業務

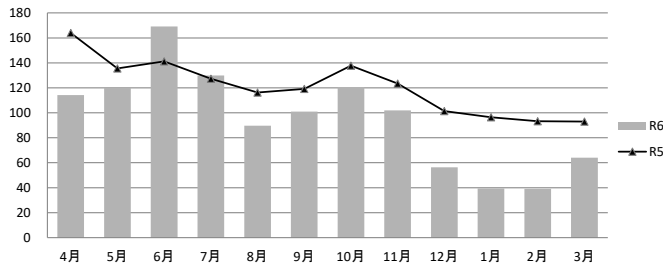
①ウェブサイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号 4-（1）-イ-（ア））

●情報収集

脱炭素や生物多様性などをテーマに各所で新たな動きが出てきていることから、最新情報やニーズ把握のために積極的な情報収集に取り組むとともに、適宜関係者へのヒアリングを行った。得られた情報をもとに各事業の企画を行った。

ウェブサイト

ウェブサイトページビュー数 1 日平均 95.6 件



●情報発信

ウェブサイト及びメールマガジンを活用し、環境活動やESD、SDGsに関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。また主催事業においては事前収録型の動画配信など、新しいスタイルの発信の試行に取り組んだ。

メールマガジン

タイトル	東北えぼめーる通信
内容	(1)EPO 東北からのお知らせ (2) 東北地方 ESD 活動支援センターからのお知らせ (3) 環境省からのお知らせ (4) 助成金・募集情報
配信	月 2 回
登録者数	901 名（前年比 -15 名）（前年 916 名）

②相談対応、対話の場作り等（仕様書番号 4-（1）-イ-（イ））

共催

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	6/13～6/16	ネイチャーポジティブ アクションポスター展 in 青葉山	NPO 法人日本ビオトープ協会	宮城県 仙台市

後援 なし

協力

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	8/1	脱炭素社会を実現するアイデア実践コンテスト（ECO コン）ブラッシュアップ会議	秋田県生活環境部温暖化対策課	秋田県 秋田市
2	8/1	＜全国ユース環境ネットワーク＞ 2024 東北地区 高校生 SDGs セミナー『生物多様性とSDGs～高校生同士のSDGs 意見交換会』	独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金 全国ユース環境ネットワーク事務局	宮城県 仙台市
3	10/3	脱炭素コミュニケーション養成研修会	一般社団法人日本自動車販売協力連合会山形県支部、山形県地球温暖化防止活動推進センター	山形県 山形市
4	10/26	地域循環共生圏フォーラム 2024 ～学生とつながり創り出す地域のミライ～	滝沢市、岩手県地球温暖化防止活動推進センター	岩手県 滝沢市



ECO コン ブラッシュアップ会議（R6/8/1）



脱炭素コミュニケーション養成研修会（R6/10/3）

活動支援・会議参加

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	8/30	令和6年度地域脱炭素推進のためのネットワーク構築 ～地域脱炭素ネットワーキングイベント	環境省	東京都千代田区
2	6/24	第1回北海道東北ブロック会議	全国地球温暖化防止活動推進センター	宮城県仙台市
3	12/17	令和6年度環境学習セミナー	宮城県保健環境センター、環境情報センター	宮城県仙台市
4	1/10	デコ活交流会 (第2回北海道東北ブロック会議)	全国地球温暖化防止活動推進センター	宮城県仙台市
5	2/8	ユネスコセミナー 産官学民で取り組むSDGs どうする 環境とエネルギー	公益社団法人仙台ユネスコ協会	宮城県仙台市

委員協力

No.	主催	会議名
1	宮城県環境生活部環境政策課	みやぎゼロカーボンチャレンジ 2050 県民会議
2	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
3	リプルンふくしま	リプルンふくしま情報発信拠点運営委員会
4	(一社) あきた地球環境会議	マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介

等

相談対応件数 69 件

対話の機会数 88 件

スタッフ研修

No.	開催日	内容
1	4/23-25	EPO 九州 交流研修①
2	7/2-6	EPO 九州 交流研修②



地球温暖化防止活動推進センター 第1回北海道東北ブロック会議 (R6/6/24)



EPO 九州 交流研修① (R6/4/23-25)



EPO 九州 交流研修②「自然資本の活用と保全セミナー」 (R6/7/4)



マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト (R6/7/29-8/8)

③全国事業に関わる業務（仕様書番号 4-（１）-イ-（エ）（オ））

③-1. 全国 EPO 連絡会議

催事名	第 1 回全国 EPO 連絡会議
開催日	2024 年 6 月 12 日（水）～ 13 日（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
参加	約 110 名 環境省、地方環境事務所、GEOC、EPO、ERCA、オブザーバー
内容	改訂された促進法の基本方針をもとに、EPO ネットワークとしての方向性の確認、事業全体の年間スケジュールの共有が行われた。 （１）各地方 EPO・GEOC の年間計画共有 （２）ステークホルダー連携事業の今年度の方向性 （３）身近な自然資本活用に関する意見交換の今年度の方向性 （４）共生圏づくり支援事業 継続審査に向けた考え方の整理 （５）地球環境基金との連携に関する共有



第 2 回全国 EPO 連絡会議（R6/10/1～3）



第 2 回全国 EPO 連絡会議エクスカーショ（R6/10/1～3）

催事名	第 2 回全国 EPO 連絡会議
開催日	2024 年 10 月 1 日（火）～ 3 日（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	富山県民会館、南砺市エコビレッジ関連施設等（富山県富山市）
参加	約 80 名 環境省、地方環境事務所、GEOC、EPO、ERCA、オブザーバー
内容	地域での協働のプロセス実践、地方での事務所と EPO 受託団体の協働のあり方について理解を深める意見交換が行われた。 （１）地域における活動主体と EPO の協働について （２）地方における地方事務所と EPO 受託団体の協働について （３）地球環境基金との連携における EPO の活用について 【エクスカーショ】 ① NPO まちづくりスポットとやまによる市内見学 ②一般社団法人環境市民プラットフォームとやまによる南砺市エコビレッジ&井波地区視察



第 2 回全国 EPO 連絡会議エクスカーショ（R6/10/1～3）

催事名	第 3 回全国 EPO 連絡会議
開催日	2025 年 1 月 16 日（木）～ 17 日（金）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
参加	約 90 名 環境省、地方環境事務所、GEOC、EPO、ERCA、オブザーバー
内容	これまでの議論のまとめをもとに、他部課室と進めた取組事例を共有しながら意見交換が行われた。 （１）今年度の議論まとめ （２）令和 7 年度に向けた各事業の確認 （３）令和 7 年度に向けた地球環境基金連携の確認



第 2 回全国 EPO 連絡会議エクスカーショ（R6/10/1～3）

③-2. 協働取組の効果最大化に関する検討会議

催事名	協働取組の効果最大化に関する検討会議
開催日	2024年9月20日（金）
開催形式	Web 会議
会場	—
参加	29 名 GEOC、EPO、オブザーバー
内容	地域での協働プロセス実践に対する理解を深めることを目的とし、EPO スタッフの経験が長いスタッフと短いスタッフによる鼎談型の話題提供とブレイクアウトルームに分かれての意見交換が行われた。 （１）鼎談※①協働のプロセス実践と伴走支援について EPO 北海道 溝渕清彦氏 さんき環境館 小路楓氏、小山絵美子氏 （２）ディスカッション ３つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換 （３）鼎談②協働のプロセス実践の共有ネットワークについて EPO 東北 鈴木美紀子 四国 EPO 常川真由美氏 関東 EPO 松沼彩子氏 （４）ディスカッション ３つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換

※鼎談（ていだん）：３人が向かい合いで話をすること

③-3.EPO ネットワークとの情報交換会

催事名	EPO ネットワークとの情報交換会 （持続可能な地域づくりのための勉強会）
開催日	2024年12月20日（金）
開催形式	ハイブリット開催
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
参加	約 60 名 GEOC、EPO、オブザーバー
内容	持続可能な地域づくりを進める上で多様な視点を持っていることが重要であることから、地域で支援をしている EPO が様々なトピックについて勉強することを目的に話題提供と意見交換が行われた。 （１）話題提供①「静動脈連携」 見山謙一郎氏（昭和女子大学人間社会学部現代教養学科 教授） （２）話題提供②「生態系サービス、ネイチャーポジティブ」 橋本禪氏（東京大学大学院農学生命科学研究科准 教授） （３）意見交換

④東北地方環境事務所との協働

東北地方環境事務所と業務の進捗について日常的に報告・連絡・相談と定期的な打合せを行い、協働による EPO 東北事業の円滑な運営に努めた。

催事名	事業運営会議
開催日	第 1 回 2024 年 5 月 9 日（木） 第 2 回 2024 年 7 月 10 日（水） 第 3 回 2024 年 9 月 2 日（月） 第 4 回 2024 年 11 月 5 日（火） 第 5 回 2025 年 1 月 14 日（火）
開催形式	対面
場所	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	東北地方環境事務所、（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、EPO 東北
内容	①事業の進捗確認 ②意見交換



第 1 回事業運営会議（R6/5/9）

⑤施設の維持・管理

（仕様書番号 4-（１）-イ-（力））

開館状況	開館日数	238.5 日
	来場者数	365 人
会議スペースの提供	利用件数	111 回
	利用者数	470 人
図書資料等の提供	提供実績	37 回
	収集資料	66 件



協働取組の効果最大化に関する検討会議（R6/9/20）

⑥地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業
(仕様書番号 4- (1) - イ - (ウ))

●プロジェクト概要

地域循環共生圏のドミノを地域内に波及させるための地域内の対話を促進することを目的に、地域に存在する「ヒト（ステークホルダー）」「モノ（資源）」「カネ（金融・経済）」「情報（ノウハウ）」をつなぐことが求められている。これを踏まえて地域の金融機関および環境団体と連携した脱炭素経営セミナーを開催した。また、循環経済の実現に向けた取組みの加速化が求められることから、東北地方環境事務所との連携によるサーキュラーエコノミーをテーマとしたセミナーの動画配信を行った。

●事業目的

グリーン社会の実現のために、社会を構成するあらゆる主体が当事者意識を持ち、経済社会システムの転換に向けて推進することが求められる。多様な主体に対して意識向上のために働きかけ、環境価値を適切に判断・評価するための情報提供を行うことを目的に各種セミナーを開催した。

●達成目標

- ・サーキュラーエコノミーに関する認知が広がっていないことから、認知および理解度の向上を目指す。
- ・地域温暖化防止活動推進センターと金融機関および環境団体の協働によるセミナーを開催し、重層的なネットワークの構築を目指す。

●EPO 東北のアプローチ

- ・メディアと連携した収録型の動画配信セミナーを実施した。放送局のスタジオで収録し、動画編集および配信を依頼することで、動画配信時のセキュリティ対策を高めた。
- ・宮城県内の環境団体および地域地球温暖化防止活動推進センターと協働し、地域金融機関と連携した催事企画を行った。

⑥ -1. セミナー動画「サーキュラーエコノミー 基本計画と東北の事例を知る」

開催概要

催事名	サーキュラーエコノミー 循環基本計画と東北の事例を知る
開催形式	事前収録・動画配信
収録	収録日 スタジオ収録：2025年1月21日（火） オンライン収録：2025年1月29日（水）
会場	仙台放送（宮城県仙台市）
配信	仙台放送のビデオ・オン・デマンド※を使用
配信期間	2025年3月1日（土）～5月31日（土）
主催	東北地方環境事務所、EPO 東北
内容	司会 櫻田彩子氏（エコアナウンサー）
講演①	「第五次循環型社会形成推進基本計画～循環経済を国家戦略に～」 大井泰人氏（環境省環境再生・資源循環局総務課 循環型社会推進室 室長補佐）
講演②	「資源は「つかう」から「つくる」時代へサーキュラーエコノミーについて」 岡田修寛氏（アマタサーキュラー株式会社 サークュラープロダクトグループ 南三陸 BIO 所長）
事例紹介	「仙台市プラスチックリサイクルの現在」 古賀信司氏（J & T 環境株式会社 仙台事業本部 本部長） 「八幡平で行われるサーキュラーエコノミーの企業研修」 柴田亮氏（株式会社八幡平 DMO 取締役 CMO） 「食品残渣と家畜排泄物を利用したバイオマス発電事業への取り組み」 小笠原英紀氏（株式会社バイオマスパワー しずくいし部長）



スタジオ収録リハーサルの様子（R7/1/21）



スタジオ収録（R7/1/21）

※ビデオ・オン・デマンド（Video On Demand）：視聴者が観たい時に様々な映像コンテンツを視聴することができるメディア配信システム。配信サービスの1つがYouTube。

⑥ -2. 脱炭素経営に関するセミナー

開催概要

催事名	脱炭素経営に関するセミナー	
開催日	2024年12月3日(火)	
開催形式	対面	
会場	信金中央金庫 東北支店会議室 (宮城県仙台市)	
参加者	44名	
主催	宮城県地球温暖化防止活動推進センター NPO 法人環境会議所東北 EPO 東北 みやぎ環境カウンセラー協会 NPO 法人環境ネットやまがた(エコアクション21 地域事務局)	
後援	信金中央金庫 東北支店、環境省東北地方環境事務所、宮城県、仙台市	
内容	(1) 講演1「気候危機。脱炭素経営で地域も元気に」 片桐扶氏(環境省東北地方環境事務所地域脱炭素創生室 再エネ促進区域推進専門官) (2) 講演2「宮城県の事業者向け支援施策について」 兼平浩紀氏(宮城県環境生活部環境政策課 環境産業コーディネーター) (3) 事業紹介1「しんきんグリーンプロジェクトについて」 木邨弥生氏(信金中央金庫 東北支店) (4) 事業紹介2「従業員様向け省エネ診断(うちエコ診断)等の事例紹介」 早川昌子氏(公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク) (5) 事業紹介3「みちのく EMS 導入による環境経営の取組」 桔梗佑子氏(NPO法人環境会議所東北) (6) 事業紹介4「エコアクション21の基本的考え方」 溝口忠昭氏(エコアクション21 審査員、みやぎ環境カウンセラー協会理事) (7) 事業紹介5「省エネお助け隊による脱炭素経営への取組」 高畑比呂子氏(NPO 法人環境会議所東北)	
感想 (抜粋)	・脱炭素経営について俯瞰したお話を伺えた。 ・県の支援施策について数多く学ぶことが出来た。 ・信用金庫という金融機関がどのように取り組んでいるのか参考になった。 ・企業の行動変容のため、従業員のマインドを変えていくことの重要性に気づいた。 ・エコアクション21の取り組み内容は難しいが、外部団体の現状、省エネ診断の重要性が良く分かった。 ・大変参考になりました。これからの業務に反映してまいります。 ・このようなセミナーはもっと多くの方に知ってほしいと感じた。 ・実際の事例なども含めて紹介いただき、非常に勉強になりました。	



脱炭素経営に関するセミナー (R7/12/3)



脱炭素経営に関するセミナー (R7/12/3)

⑥ -3. 中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営セミナー in 青森

開催概要

催事名	中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営セミナー in 青森
開催日	2025 年 1 月 17 日（金）
開催形式	対面
会場	ねぶたの家 ワ・ラッセ イベントホール（青森県青森市）
参加者	101 名
主催	青森県、青森県地球温暖化防止活動推進センター（事務局）
共催	EPO 東北
後援	青森市、環境省東北地方環境事務所、青森商工会議所、青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会、青森県中小企業団体中央会、株式会社プロクレアホールディングス、東奥日報社
内容	（１）情報提供 藤野純一氏（公益財団法人地球戦略研究所上席研究員） （２）基調講演「サステナビリティに係る国内外の動向～脱炭素社会における企業・地域のあり方～」 吉高まり氏（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社フェロー） （３）パネルディスカッション 「地域脱炭素に向けて求められる地域金融機関や地域企業の役割と課題について」 コーディネーター：藤野純一氏 パネリスト： 吉高まり氏 須藤慎治氏（株式会社プロクレアホールディングス 取締役） 小坂仁志氏（株式会社小坂工務店 代表取締役） 小谷知也氏（青森県副知事）
感想（抜粋）	・脱炭素について、世界、日本、青森の現状や具体的な企業の取組を知ることができて良かった。 ・地元の資源で地元を盛り上げて行かなければと思いました。 ・熱意とストーリーが地元を活性化できると改めて考えさせられました。 ・地域金融の重要性、脱炭素分野の取組み方法を学べて良かった。 ・まだまだ世界的な流れと青森市の脱炭素に関する温度感に差があると感じた。



パネルディスカッション（R7/1/17）



会場の様子（R7/1/17）

●事業総括

【成果】

- ・地域地球温暖化防止活動推進センターと連携し、地域の主体と共に企画・運営に取り組む催事を実施できた。
- ・過年度事業で ESG 金融をテーマに金融機関や企業との連携を試みてきたが、本年度は地域の団体が主体となり多様な主体との連携が実現できた。
- ・新たなテーマとしてサーキュラーエコノミーを取りあげ、催事企画をきっかけに企業や DMO など新たなネットワークを広げることができた。

【課題】

- ・地方環境事務所内の他課と初めて連携事業を実施し、相互理解の不足など新たな課題が生じた。事務所からは催事の企画運営が求められ、催事の企画開催を通してネットワークの拡大や関係構築、地域還元性を求める EPO の志向が十分に理解されていなかった。このため企画調整の段階で時間を要した。
- ・EPO は協働の拠点であることや、役割や機能などについて十分に伝わらず時間を要してしまった点が反省点としてあげられる。改めて EPO について伝えるための資料の整備、相互理解の確認が必要と考える。

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

①地域循環共生圏づくり支援体制構築事業（仕様書番号 4-（1）-ウ-（ア））

①-1. 中間支援機能の担い手の育成

●事業概要

「地域循環共生圏づくり支援体制構築事業」は各地域での地域循環共生圏づくりを更に推進するため、地域循環共生圏づくりの中間支援を行うことができる主体の育成を主目的としている。地域循環共生圏づくりに取り組む団体と、その団体への中間支援を行う主体を公募し、選定された案件について EPO および地方環境事務所等が地方支援事務局として伴走型の支援を行う。

【地域循環共生圏とは】

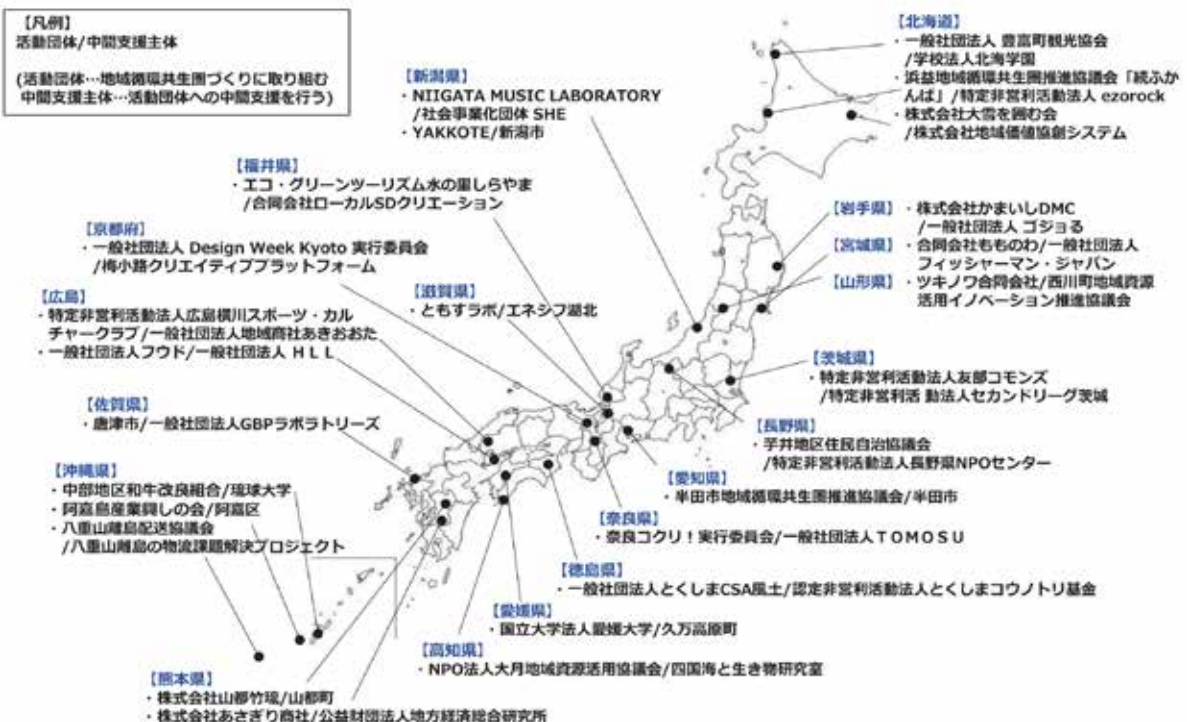
地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカル SDGs 事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくるとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方のこと。

【採択団体】東北 3 案件／全国 26 案件

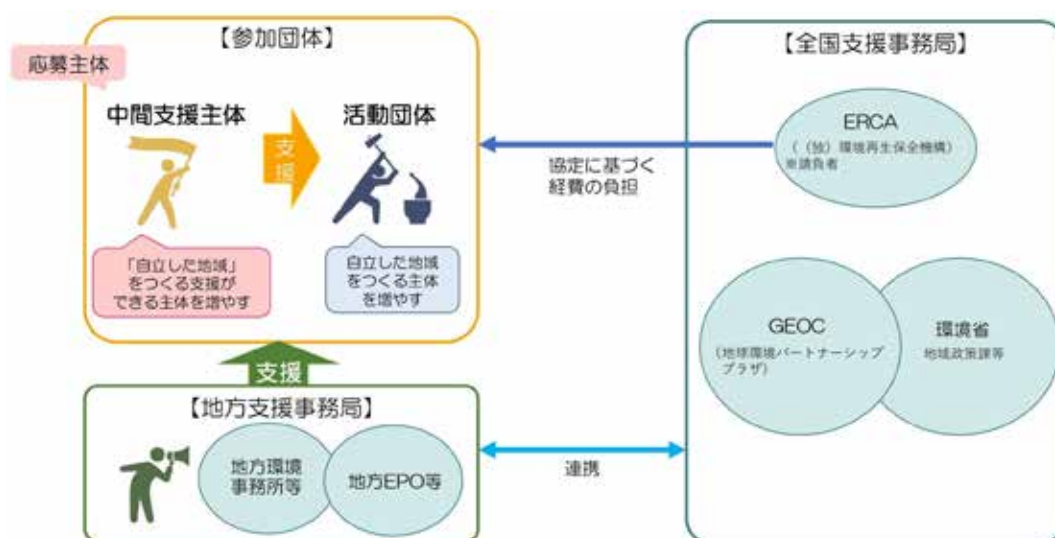
活動地域	団体名	
	【中間支援主体】	【活動団体】
岩手県 釜石市	一般社団法人ゴジョる	株式会社かまいしDMC
宮城県 石巻市	一般社団法人 フィッシャー・マン・ジャパン	一般社団法人もものわ
山形県 西川町	西川町地域資源活用 イノベーション推進協議会	ツキノワ合同会社



R6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業参加団体（26件、52団体）



区分	主体・組織	役割
参加団体	活動団体	地域循環共生圏づくりの核となる地域プラットフォーム*を形成する＝「自立した地域」をつくる主体
	中間支援主体	専門性・知識・経験を活かして、地域プラットフォームづくりを支援する＝「自立した地域」をつくる支援ができる主体
支援事務局	地方支援事務局 地方環境事務所（REO） EPO 等	地域プラットフォーム形成支援と中間支援主体のスキルアップを支援する
	環境省地域循環共生圏推進室	事業全体の総括的な担当
	全国支援事務局 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）	EPO と全国支援事務局のつなぎ役、中間支援ギャザリング*の企画運営を担当
	環境再生保全機構（ERCA）	清算、経費手続きの事務局



●事業スケジュール（東北）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加団体 向け 会議等	ヒアリング	中間支援 ギャザリング	キックオフ			中間共有会		継続希望調書 の提出		ステーキ ホルダー ミーティング	中間支援 ギャザリング	成果物
事務局向け 会議等		共有会				作業部会			事業検討会議 継続審査 委員会	作業部会		審査委員会
	フォローシート（四半期ごと）									新規公募		

●報告資料など提出物

①参加団体

作成資料	作成者	内容	提出時期
予算書および連携協定書	中間支援主体	本事業の請負事業者である ERCA から経費支払いを行うため協定を結ぶ	6月3日
中間支援ギャザリング 発表資料	中間支援主体	第1回：活動概要と支援計画 第2回：年間の取組み報告	5月24日 2月14日
キックオフ※発表資料	活動団体	活動計画、年間予定、3か年状態目標	6月3日
月次報告 (5月～2月分)	活動団体	月度の取組内容と振り返り	毎月5日
	中間支援主体	支援の内容と振り返り	毎月10日
継続希望調書	活動団体 中間支援主体	次年度の事業継続を希望する場合、当年度の取組状況と今後の展開について	11月29日
成果物	活動団体	事業やプロジェクトを取り巻く人や組織とその関係性をマップ上に整理し図式化したもの 地域の構想を書き示したコンセプトペーパー（マングラ） 地域の構想の核となる事業の概要（3つ以内）	3月21日
中間支援振り返りシート ※第2回中間支援ギャザリング 発表資料に一本化	中間支援主体	活動団体への支援を通じて自らの中間支援機能がどのように強化されたか	—

②地方支援事務局

作成資料	内容	提出時期	提出先
ヒアリングシート	年度当初に中間支援主体に対して支援計画および課題の把握状況についてヒアリングを行い、地方支援事務局の所感を加筆して共有会の資料として提出	5月10日	GEOC
フォローシート	3ヶ月間の振り返りと、次の四半期に向けた地方支援事務局の見立てと打ち手を報告	4半期ごと	地域循環共生圏 推進室

※用語の補足

地域 プラットフォーム	地域循環共生圏づくりにおいて対話と協働から、事業が生まれ続ける場や仕組みのこと。
ステークホルダー	利害関係者のこと。地域循環共生圏の創造や実現に携わる個人や企業、行政、NPO等の主体を指す。地域循環共生圏では地域が抱える課題について、環境を切り口にステークホルダーが有機的に連携して解決していくことが求められている。
ステークホルダー マップ	プロジェクトを取り巻く人や組織とその関係性を分析しビジュアル化したもの。関係性の可視化を目的とする。
コンセプトペーパー (マングラ)	地域のありたい未来、解決したい地域の課題、未来に向けた取組と期待される成果、取組に活用できる地域の資源を一枚に整理し、その「つながり」や「構造」を見える化するツール
ギャザリング	特定のジャンルの人を集めて開催する集会・催しのこと。
キックオフ	プロジェクトを開始すること。最初の会議・会合を「キックオフミーティング」と呼ぶ。



ヒアリング（R6/4/17）

① -1-1. 一般社団法人ゴジョる

活動テーマ	豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅 Blue-Green-Sustainable Journey 持続可能な観光プラットフォーム構築		
活動地域	岩手県釜石市		
団体名	活動団体	中間支援主体	
	株式会社かまいし DMC	一般社団法人ゴジョる	
団体概要	【活動エリア】 釜石市の鵜住居・片岸・根浜・箱崎 【事業】 施設管理企画運営、プログラム企画実施、地域産品プロデュース、地域創生活動他 【ミッション】 観光地域づくり法人として、地域の観光資源及び産品の魅力を最大限引き出し、地域経済を活性化、住まう誇りを醸成すること		【活動エリア】 岩手県釜石市 【事業】 社会福祉事業、地域商材販売事業、林福連携事業 【ミッション】 東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地の持続可能性の向上のため、地域の課題を連携・協働で解決を促す
活動概要	【ありがたい姿】 それぞれの活動チームがゆるやかな連携をとりながら、つながりあい、根浜全体の地域の魅力を作りあげ、外から訪れた人々がそれらの魅力を体験できる環境がととのい、心の仲間が増えていくことを目指す。 【ローカル SDGs 事業として取り組む内容】 環境× 観光× ○○ の事業のタネづくり		【中間支援の方針・計画】 ・地域伴走型の効果の高い支援体制づくり ・縦、横、斜めのバランスを調整するコーディネート ・地域伴走型シンクタンク*の核となるアドバイザーボードの運営
ヒアリング	実施日	開催形式	会場
	4月22日（月）	Web 会議	—
打合せ等	7月1日（月）	ハイブリット	EPO 東北
	10月8日（火）	ハイブリット	EPO 東北
	11月26日（火）	対面	根浜シーサイド
	2月13日（木）	Web 会議	—
内容			
参加団体（活動団体、中間支援主体）を対象にヒアリングを行い、事業の理解度や活動の推進における課題の把握状況等を確認した。持続する活動への発展に向けて関係者がプロジェクトを捉え直す支援、活動団体に知見やノウハウを蓄積するためのアプローチが課題となる。			
支援方針の変更の相談を受けて秋口までの見立てと打ち手を確認した。			
中間共有会の振り返り、脱炭素先行地域に関する状況の共有、今後の進め方の確認を行った。			
活動主体と一緒に気候変動、生物多様性、地域循環共生圏のつながりを捉え直し、課題整理を行った。			
中間支援ギャザリングに向けて作成資料の内容について確認及び考え方の整理を行った。			

【ステークホルダーミーティング】

催事名	「鵜住居・根浜・箱崎」地域における情報交換交流会
開催日	2025年1月13日（月・祝）
開催形式	対面を中心としたハイブリット
会場	根浜シーサイド・レストハウス（岩手県釜石市）
参加対象	鵜住居・根浜・箱崎地域で活動する団体
参加者	23名
内容	地域で活動する主要団体を対象とし、各団体の活動紹介と情報交流を行った。これまで団体同士の交流の機会がなく、プラットフォーム形成に向けたキックオフミーティングの位置づけで開催した。
支援内容	・対象者、会の方向性など企画の設計に関する相談対応 ・当日はオブザーブ参加

※地域伴走型シンクタンク：地方創生などの課題解決にむけて情報提供や調査研究、解決策の提示など伴走型コンサルティングを行う機関。域内に広範なネットワークを有し、地域独自の事情を詳細に把握していることから、地域社会の重要なステークホルダーとしての役割が期待される。



「鵜住居・根浜・箱崎」地域における情報交換交流会（R7/1/13）

① -1-2. 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

活動テーマ	森と海を繋ぐ関係人口の創出と持続的な環境保全活動の推進			
活動地域	宮城県石巻市牡鹿半島荻浜地区			
団体名	活動団体		中間支援主体	
	合同会社もものわ		一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン	
団体概要	森と人との関係を最適化する「海に良い影響を与える森林整備」をテーマに掲げながら、チェーンソー技術指導を軸に、その過程で産出される杉材の加工販売や研修事業等、森林資源を余すことなく活用する森林資源利活用事業を展開している。		漁業のイメージをカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案していく若手漁師集団。2024年までに多様な能力をもつ新しい職種「フィッシャーマン」を1000人増やすというビジョンを掲げ、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指す。	
活動概要	【ありたい姿】 ①地域内外に仲間がいて、ヒト・モノ・カネ・情報が循環する体制の構築 ②科学データに基づいた整備による、豊かな里海山の連環の実現 ③水産業やローカルSDGs事業の自走・地域雇用の創出 【ローカルSDGs事業として取り組む内容】 ①森里海の連環を題材にした企業研修の開発 ②間伐材資源を活用した各種商品の開発 ③カーボンクレジット*創出による事業手法の確立		【中間支援の方針・計画】 地域外の企業・研究機関・一般の方を繋ぐ窓口となり、ヒト・モノ・カネ・情報の流れを生み出し、加速させる役割を果たす。 具体的には、以下を実施する。 ・他地域事例の視察、意見交換の調整 ・研究機関、研修を希望する企業紹介 ・活動内容や開発した商品の発信、PRなど	
ヒアリング	実施日	開催形式	会場	内容
	4月19日（金）	対面	はまぐり堂（宮城県石巻市）	参加団体（活動団体、中間支援主体）を対象にヒアリングを行い、事業の理解度や活動の推進における課題の把握状況等を確認した。参加団体同士で良好な関係構築ができている。地域課題をよく分析しており、持続的に稼いでいくことを目指して丁寧に基盤を作ることを念頭に中長期ビジョンを描いている。
打合せ等	6月20日（木）	Web会議	—	中間支援主体と進捗確認を行った。
	8月6日（火）	Web会議	—	進め方、経費配分の変更を確認した。
	8月27日（火）	Web会議	—	農林水産政策研究所との意見交換に同席した。
	9月3日（火）	Web会議	—	清算に関する相談対応を行った。
	11月13日（水）	Web会議	—	進捗と今後の予定確認を行った。
	1月14日（水）	Web会議	—	ステークホルダーミーティングの進行確認を行った。
	2月26日（水）	Web会議	—	経費精算に向けて項目、準備資料の確認を行った。

※カーボンクレジット：主に企業間で温室効果ガスの排出削減量を売買できる仕組みのこと

【ステークホルダーミーティング】

催事名	第1回 石巻 森と浜の勉強会
開催日	2025年1月24日（金）
開催形式	対面
会場	かほくホール（宮城県石巻市）
参加対象	プロジェクトコアメンバー、関係自治体
参加者	24名
内容	「アカデミアの視点から見る牡鹿半島の現在地と可能性」をテーマに、研究所等から森や海の調査結果と課題などの話題提供が行われた。後半は地域のプレイヤー6名を中心に、目指すべき未来の姿について車座で討議が行われた。
支援内容	・企画への助言 ・当日は全体討議のグラフィックレコードを担当



第1回 石巻 森と浜の勉強会 (R7/1/24)

① -1-3. 西川町地域資源活用イノベーション推進協議会

活動テーマ	雪室による地域産業のリブランディング			
活動地域	山形県西川町			
団体名	活動団体		中間支援主体	
	ツキノワ合同会社		西川町地域資源活用イノベーション推進協議会	
団体概要	・2023年5月設立（代表の伊東が同年3月に東京から移住） ・建築設計やまちづくりをはじめ、地域課題解決に向けた各種事業を行う		【活動エリア】山形県西川町 【ミッション】西川町の厳しい自然環境や大自然の恵み、豊富な森林資源、観光資源を活かすとともに、人やその人の想いを繋ぎ、地域課題解決に資する。かつ、継続的に地域資源を活用したイノベーションを創出し、持続可能な地域を作ることを目的に活動している。	
活動概要	【ありたい姿】 西川町の最大の特徴であり最大の悩みでもある雪をサイトスペシフィックな資源として活用することで、地産製品の付加価値向上や地域独自のツーリズムにつなげる。これにより新たな仕事と収入源を確保すると同時に、地域全体の持続可能性を高めることを目指す。 【ローカルSDGs事業として取り組む内容】 ・雪室による雪の資源化と除排雪コストやCO2排出の低減 ・雪室ブランドの確立による製品の高付加価値化と競争力強化 ・一年を通して雪を体験できる豪雪地ならではのツーリズム開発 ・雪室を通じた多様なプレイヤーによる地域産業ネットワークの構築		【中間支援の方針・計画】 ・主体的に行動できる団体であり、移住者の視点や設計等の専門知識を活用して持続可能な地域に向けた取組みとなることを期待している。 ・活動団体と共に課題を整理したり、ステークホルダーになり得る地域住民や西川ファンとの橋渡し、行政との調整などの支援を計画している。 	
ヒアリング	実施日	開催形式	会場	内容
	4月17日（水）	対面	西川町役場	参加団体（活動団体、中間支援主体）を対象にヒアリングを行い、事業の理解度や活動の推進における課題の把握状況等を確認した。協議会事務局である役場の担当者が中間支援主体としての役割や機能を具体的にイメージできておらず、サポートが必要な段階である。
打合せ等	7月12日（金）	対面	西川町役場	中間支援機能について考え方の整理を行った。
	10月9日（水）	対面	トラス TRAS	中間共有会の振り返り、次年度継続検討について確認した。
	11月29日（金）	Web会議	—	次年度に向けた取組みの軌道修正の共有があった。中間支援のあり方について考え方の整理を行った。

【ステークホルダーミーティング】

催事名	第2回雪室ワークショップ
開催日	2025年1月31日（金）
開催形式	対面
会場	にしかわイノベーションハブ TRAS（山形県西川町）
参加対象	雪室活用を検討している事業者、関心のある地域住民
参加者	24名
内容	「雪を活かした新しい事業をみんなで考えよう！」をテーマとし、雪室活用の事例紹介の後に雪を活用した新事業のアイデア出しワークショップを行った。
支援内容	・企画の方向性、中間支援について壁打ち ・当日はオブザーブ参加



第2回雪室ワークショップ（R7/1/31）

①-2. 東北ブロック キックオフミーティング

催事名	【東北ブロック】キックオフミーティング
開催日	2024年6月7日（金）
開催形式	対面を中心としたハイブリット形式
会場	HUMOS5 Aホール（宮城県仙台市）
参加者	29名 ・参加団体（活動団体、中間支援主体） ・オブザーバー（地方審査委員、全国委員） ・全国支援事務局（環境省、GEOC、ERCA） ・地方支援事務局（東北 REO、EPO 東北）
内容	参加団体同士の交流を通じて活動のヒントや気づきを得ることを目的に、活動計画の発表と意見交換を行った。 （１）事業目的、スケジュールの説明 （２）活動計画の発表と意見交換 ①活動団体による計画発表 ②中間支援主体による補足 ③意見交換
主な意見	・支援をする時に何かしらの指標を持って、客観的に活動を評価できるような取組みにしていけないとやりにくいだろう。 ・地元の方の理解をどう得て巻き込んでいくのか、いろんなパターンがあると思うので他の地域のやり方もぜひ情報収集して取り組んでほしい。 ・中間支援は取組みを支えるための知見、ノウハウなど取組みを支える情報的な基盤を整理するところはすごく大事な点だ。 ・持続可能な地域づくりを進める中で、自治体がしっかりと役割を果たすということは必要不可欠なことだ。行政が中間支援機能を担うのも一つの形だが、専門性や継続性の蓄積をどう担保できるかこの事業を通じて検討していただきたい。

①-3. 東北ブロック 中間共有会

催事名	【東北ブロック】中間共有会
開催日	2024年9月12日（木）
開催形式	対面
会場	HUMOS5 Aホール（宮城県仙台市）
参加者	29名 ・参加団体（活動団体、中間支援主体） ・オブザーバー（地方審査委員、EPO 九州） ・全国支援事務局（環境省、GEOC、ERCA） ・地方支援事務局（東北 REO、EPO 東北）
内容	活動状況を共有すること、また課題を明確にして計画のブラッシュアップを後押しすることを目的に開催した。 （１）参加団体による中間共有 （２）事業計画をブラッシュアップする壁打ちセッション 【ファシリテーター】西直人氏（リードクライム株式会社 代表取締役、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科 准教授）
主な意見	①チーム釜石 ・地域の取組みを考える時に「小規模多機能化」または「縮充」も視野に入れてはどうか。 ・ありがたい未来に掲げているキーワードを皆に伝わる言葉に磨き上げる作業が不足している。 ②チーム西川 ・雪をポジティブなものと捉え直すところから地域ビジョンとの連動性、手段としての雪室の整理が必要ではないか。 ・地域内の共通ビジョンは捻った言葉ではなく地元住民の生の声があると良い。 ③チーム石巻 ・カーボンクレジットにつながるロジック、循環の可視化ができないか。 ・森里海関連の行政や他地域との連携、プラットフォームのあり方についてどんな状態を目指すのか深堀の余地がある。



【東北ブロック】キックオフミーティング（R6/6/7）

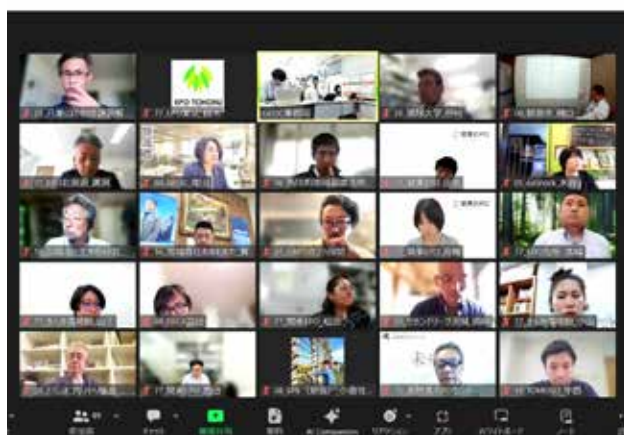


【東北ブロック】中間共有会（R6/9/12）

① -4.GEOC が主催する会議等への参加

催事名	第1回中間支援ギャザリング
開催日	2024年5月30日(木)～31日(金)
開催形式	Web会議
会場	—
参加者	約140名 ・中間支援主体 26団体 ・全国事務局(環境省、GEOC、ERCA) ・地方支援事務局(REQ、EPO、いであ沖縄支社) ・地域循環共生圏づくりプラットフォームコーディネーター
内容	中間支援主体を対象としたキックオフとして開催された。本事業の目的や目指す中間支援機能の共有と意見交換を行う時間が設けられ、地方EPOはグループワークの進行を担った。 ＝1日目＝ (1)【インプット①】地域循環共生圏の考え方と本事業の目的 (2)【インプット②】協働ガバナンスと中間支援機能 講師：島岡未来子氏(早稲田大学研究戦略センター教授) (3) 振り返りディスカッション ＝2日目＝ 中間支援主体の活動紹介(5分×26団体)

催事名	第2回中間支援ギャザリング
開催日	2025年2月27日(木)～28日(金)
開催形式	対面
会場	TKP 新橋カンファレンスセンター ミーティングルーム16E(東京都千代田区)
参加者	約96名 ・中間支援主体 26団体 ・全国事務局(環境省、GEOC、ERCA) ・地方支援事務局(REQ、EPO、いであ沖縄支社) ・地域循環共生圏づくりプラットフォームコーディネーター
内容	中間支援主体として1年間の活動・支援内容・成果を振り返り、参加団体同士の交流を促進することを目的に開催された。 ＝1日目＝ 1年間の取組(中間支援)を振り返る (1) 取組発表 (2) テーマ別交流 ＝2日目＝ 今後の地域づくりのために必要な中間支援機能を考える (1) グループディスカッション (2) 発表：今後取り組みたいこと宣言



第1回中間支援ギャザリング(R6/5/30～31)



第2回中間支援ギャザリング(R7/2/27～28)

【支援事務局向け会議】

催事名	共有会
開催日	2024年5月15日(水)
開催形式	Web会議
参加者	72名 ・全国事務局(環境省、GEOC、ERCA) ・地方支援事務局(REQ、EPO、いであ沖縄支社)
内容	事務方のキックオフとして、事業全体の目的とスケジュール、採択された団体に対する見立てを共有し、意見交換が行われた。 (1) 共生圏づくり支援体制構築事業の全体像(事業目的、スケジュール)の共有 (2) 採択事業の情報共有(26案件) 採択理由とヒアリング結果 (3) 審査プロセス振り返り (4) 今後の予定共有

催事名	事業検討会議
開催日	2024年12月18日(水)
開催形式	ハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)(東京都渋谷区)
参加者	67名 ・全国事務局(環境省、GEOC、ERCA) ・地方支援事務局(REQ、EPO、いであ沖縄支社)
内容	効果的な事業執行に向けて改善点等を共有し、次年度計画等について事務局間で確認・議論が行われた。 (1) 本事業として目指す姿について (2) 次年度実施内容 (3) 今年度中の予定共有

【GEOC・EPO 向け会議】

催事名	オンライン意見交換
開催日	2024 年 8 月 27 日（火）
開催形式	Web 会議
参加者	13 名 ・GEOC、EPO
内容	EPO スタッフ間でキックオフ以降の動きや月次報告およびフォローシートを使用しての所感などを共有し、作業部会に向けた意見交換と論点整理が行われた。 （１）各地方における事業実施状況の共有 （２）月次報告に関する意見交換 ・書きにくいとの声がある。負担になっていないか。 ・内容が詳細すぎる懸念がある。 ・月次報告を使って成長したい意向を持っている団体もいる。 ・作業のためのフォーマットではなく、書くことが力になるフレームに改善できないか。 ・何のためにやるのか整理とブラッシュアップが必要。

催事名	第 1 回作業部会
開催日	2024 年 9 月 4 日（水）
開催形式	対面を中心としたハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
参加者	約 40 名 ・EPO（8 地方）、いであ沖縄支社 ・全国支援事務局（環境省、GEOC、ERCA）
内容	各地方の状況を共有し、参加団体や地域の変化をとらえるための視点や業務運営上の改善ポイントについて意見交換を行った。 （１）全国支援事務局視点の課題感の共有 （２）グループワーク 3 地方で 1 つのグループをつくり案件の特徴を共有し、「活動の性格」と「中間支援の性格」を軸に分類した上で整理の仕方について意見交換を行った。 （３）継続審査に関する共有と意見交換

催事名	事業検討会議に向けたオンライン意見交換
開催日	2024 年 12 月 6 日（金）
開催形式	Web 会議
参加者	12 名 ・GEOC、EPO
内容	事前に課題や方向性の洗い出しを行うことを目的に、オンラインでの情報共有を行った。 （１）情報共有 各地方での中間共有会ならびに継続審査説明等の状況、審査会の見通しについて （２）プロセス上の成果や課題の整理

催事名	事業検討会議に向けた意見交換
開催日	2024 年 12 月 17 日（火）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
参加者	10 名 ・GEOC、EPO
内容	事業検討会議の資料に基づき、懸念事項を共有した上で意見交換を行った。 （１）懸念事項の共有 ・継続審査委員会 ・議論の方向性 （２）意見交換 ・フォーマット類の改訂 ・事業のアウトプット ・「中間支援機能」の捉え方

催事名	第 2 回作業部会
開催日	2025 年 1 月 30 日（木）
開催形式	対面を中心としたハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
参加者	約 60 名 ・EPO（8 地方）、いであ沖縄支社 ・全国支援事務局（環境省、GEOC、ERCA）
内容	参加団体・地域の変化を捉えるための視点について検討し、次年度以降の業務運営上の改善ポイントについて意見交換を行った。 （１）4～8 月までの振り返り 全国支援事務局視点の課題感の共有 （２）グループワーク 3 地方で 1 つのグループをつくり案件を「活動の性格」と「中間支援の性格（型）」で整理・分類し、意見交換を行った。 （３）情報共有と意見交換 ・次年度以降の業務運営上の改善ポイント ・今後の会議で共有・議論することの確認



第 1 回作業部会（R6/9/4）

【委員を対象とする会議（傍聴／オンライン視聴）】

会議名等		開催日	内容
有識者会議	第1回	7月18日（木）	事業の方向性や評価方法について意見交換が行われた。中間支援のフェーズが変化していることを踏まえて全体像を設計すべき、支援体制の構築が大事である、当事者が納得する評価指標づくりが必要だ、などの指摘が出された。※非公開で開催、後日議事録が共有された。
	第2回	9月30日（月）	事務局から現時点での気づき、対応状況を共有した上で成果を捉える視点について提案が行われた。これに対して委員から質問や意見、中間支援の整理分析に関する情報提供があった。
	第3回	2月18日（火）	事業の進捗報告を受けて、事業の定義やロジックモデルの考え方、中間支援機能やモデル整理の視点について意見交換が行われた。

① -5. 次年度事業の参加団体の審査委員会運営業務

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	青木ユカリ	NPO 法人せんだい・みやぎNPO センター常務理事／事務局長
	平岡俊一	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科 准教授
	佐々木秀之	宮城大学事業構想学群地域創生学類 准教授

催事名	令和6年度 継続審査委員会
開催日	2024年12月9日（月）
開催形式	Web 会議
会場	—
参加者	10名 ・審査委員3名 ・地方支援事務局（東北 REO、EPO 東北）
内容	(1) 審査手順説明 (2) 審査方法及び基準、採点表説明 (3) 審査 (4) 評議
備考	・3 案件を継続とする ・地方毎の案件上限が3 案件のため令和7 年度の新規募集は行わない。これに伴い新規応募の審査委員会は開催不要となった。



令和6年度 継続審査委員会（R6/12/9）



第2回中間支援ギャザリング（R7/2/27～28）



第2回中間支援ギャザリング（R7/2/27～28）

① -6. 卒業団体のフォローアップ調査

調査対象	日承循環合同会社
事業名	環境で地方を元気にする地域循環共生圏 づくりプラットフォーム事業
活動年度	令和5年度（2023年度）
開催日	2025年2月4日（火）
開催形式	Web会議
会場	—
備考	令和2年度～3年度に三瀬地区自治会が活動に取り組み、令和4年（2022年）4月15日に日承循環合同会社を設立した。



プラットフォーム「サトモリツーリズムネットワーク」R6/1/30 発足

内容

（１）現在の取組状況

- ・体験ツアーを企画し、地域との連携ができた。首都圏からの参加もあったが、SNSによる周知不足を感じている。
- ・運営資金が不足している。次年度も他省庁の事業への応募を行いたい。

（２）環境省事業を振り返って

- ・プラットフォームができたことで活動の土台が整った。合同会社の立ち上げ、ネットワークの形成を通してこれまで不足していた部分を補い、できなかったことができるようになった。
- ・ネットワークの輪が広がっている。同じ志で取り組んでいることから新たな動きの声かけをした時も認識や意見の食い違いはない。
- ・すぐに大きな成果はもたらさないかもしれないが、ネットワークの輪のさらに外に新たな輪ができ、じわじわと広がっている感覚がある。

（３）環境省・事業事務局に対する要望

- ・東北の中で他の団体とつながる機会や見学の機会を設けてもらいたい。交流の機会があるとネットワークも広がり、学びも多い。

●事業総括

【成果】

- ・地域循環共生圏プラットフォーム事業から地域循環共生圏づくり事業へと形態が変わったものの、これまでの伴走支援事業で得た知見を活用してEPO東北らしい支援が実践できた。選定された団体同士が東北の仲間としての意識や共感性を持って互いにコミュニケーションを行うことに留意してキックオフと中間共有会を企画し、団体同士および事業の関係者との良好なコミュニケーションが生まれた。団体同士が互いに連絡を取り合うなど、点と点から面へと広げる支援ができた。
- ・地方支援事務局は中間支援主体の相談役となることを目標に取り組み、中間支援主体の立ち位置や支援のあり方を共に考え、必要であれば現地に出向き参加団体を交えたミーティングに参加した。気づきを与えるきっかけになった、考え方を整理することができた等の反応があり、活動の変革促進につながる支援ができた。



【東北ブロック】中間共有会（R6/9/12）

【課題】

- ・事業構造の複雑化に伴い、事業の意図が十分に伝わっていない懸念があった。地方支援事務局として改めて情報のインプットなどのサポートを行ったが、活動のスピード感に影響したと考えられる。また、1年目の事業であることから指標や定義が定まっていないことの混乱もあった。全国支援事務局と共有しながら次年度に向けた改善を図りたい。
- ・電話、メール、Web会議等で日々のコミュニケーションを行ったが、対面コミュニケーションと比べると互いに端的に要点のみを伝える傾向が強く、工夫が必要と考える。
- ・「中間支援主体の成長を促すための支援」という新しいアプローチの事業であることから、EPOとしても成長が求められる。東北独自の支援体制の構築を目指して、知見を持つ外部人材の力も借りながら、事業に即した伴走支援のあり方の試行錯誤を重ねてノウハウを蓄積していくこと、スキルの向上が課題となる。



【東北ブロック】中間共有会（R6/9/12）

②地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会 (仕様書番号 4-(1)-ウ-(イ))

●プロジェクト概要

世界は気候変動および生物多様性の損失及び汚染という3つの危機に直面し、国際的に重要な課題と位置付けられている。日本では生物多様性国家戦略2023-2030における2050年ビジョン「自然と共生する社会」の達成に向けたミッションとして「ネイチャーポジティブ(自然再興)」を掲げている。ネイチャーポジティブを地域で推進していくヒントを探るため、対面型のフォーラムと動画配信型のセミナーを開催した。

●事業目的

生物多様性をテーマに国内で様々な取組みが行われている一方で、「生物多様性」について言葉の意味や背景、国内外の動きについて認知度が低い現状がある。既存の取組みをネイチャーポジティブの視点から紐解き、参加者に活動および地域でネイチャーポジティブを推進するヒントを持ち帰ってもらうことを目的に事業を実施した。

●事業プロセス

	フォーラム	動画配信
4月	企画準備	企画検討
5月	↓	
6月	フォーラム	
7月		
8月		
9月		企画調整
10月		
11月		
12月		
1月		動画収録
2月		動画編集
3月		動画公開

●EPO 東北のアプローチ

- ・日本ビオトープ協会からの相談に応じ、協働でフォーラムを実施した。
- ・メディアと連携した収録型の動画配信セミナーを実施した。実施にあたっては登壇者および関係者との事前のコミュニケーションを丁寧に行い、相互理解に務めた。

●達成目標

- ・ビオトープをテーマとするフォーラムを開催し、生物多様性および自然再生・保全の取組みについて広く発信する。
- ・生物多様性の視点から持続可能な生産、事業活動、消費活動について意見交換を行うセミナーを実施し、広く発信する。



セミナー動画収録 リハーサル (R7/1/19)



セミナー動画収録 スタジオの様子 (R7/1/19)

② -1. ビオトープフォーラム in 仙台 2024

開催概要

催事名	ビオトープフォーラム in 仙台 2024 - 私たちの豊かさは多様な生き物の棲む地球から -	
開催日	2024 年 6 月 14 日 (金)	
開催形式	対面	
会場	東北大学青葉山新キャンパス 環境科学研究科本館 2F 大講義室 (宮城県仙台市)	
参加者	110 名	
主催	NPO 法人日本ビオトープ協会	
共催	自然環境復元学会、EPO 東北	
後援	環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、宮城県、仙台市、東北大学、 東北学院大学、一般社団法人日本造園建設業協会東北総支部・宮城県支部、 一般社団法人宮城県造園建設業協会、宮城県造園芸協同組合	
内容	第 1 部 第 16 回ビオトープ顕彰 表彰式 (1) 表彰式 (2) 審査報告・講評 (3) 事例発表 ①あさはた緑地ビオトープ ②仙台・みどりの杜ビオトープ	
	第 2 部 (1) 講話 「環境 DNA 観測網「ANEMONE」の挑戦：地域主導のネイチャーポジティブ実現に向けて」 近藤倫生氏 (東北大学大学院生命科学研究科 教授) (2) 基調講演 「これからの地球環境と私たちの暮らし」- 新たなる自然共生社会を目指して - 五箇公一氏 (国立環境研究所 生物多様性領域 室長) (3) 特別講演 「仙台湾岸でよみがえる ふるさとの自然」 平吹喜彦氏 (自然環境復元学会 学会長、東北学院大学教授)	



第 1 部 第 16 回ビオトープ顕彰 表彰式 (R6/6/14)



同時開催 パネル展示 (R6/6/14)



第 2 部会場の様子 (R6/6/14)



第 2 部基調講演 (R6/6/14)

② -2. セミナー動画「ネイチャーポジティブ - 農林業と自然が紡ぐ、持続可能な地域づくりの可能性 -」

開催概要

催事名	ネイチャーポジティブ - 農林業と自然が紡ぐ、持続可能な地域づくりの可能性 -
開催形式	事前収録・動画配信
収録日	2025年1月19日(日)
録会場	仙台放送(宮城県仙台市)
配信	仙台放送のビデオ・オン・デマンドを使用
配信期間	2025年3月1日(土)～3月31日(月)
主催	EPO 東北
内容	第1部 (1) 講演① タイトル未定 相澤あゆみ氏(環境省 東北地方環境事務所 生物多様性保全室) (2) パネルディスカッション ファシリテーター: 平田裕之氏(一般社団法人コ・クリエーションデザイン) パネリスト: ・籠嶋雅代氏(生活クラブ生活協同組合・神奈川 副理事長/連合消費委員会副委員長) ・今野修氏(JA 庄内みどり遊佐町共同開発米部会 会長) ・相澤あゆみ氏(環境省 東北地方環境事務所 生物多様性保全室) 第2部 事例紹介 - 自然共生サイト認定に向けて - (1) 南三陸森林管理協議会(宮城県南三陸町) (2) 沢田上地区居久根景観保全会(宮城県大崎市) (3) 童子下いきもの研究会(宮城県南三陸町)



セミナー動画収録(R7/1/19)



セミナー動画 配信画面

●事業総括

【成果】

- ・ピオトープをテーマに活動する専門団体との連携により関係性の構築ができた。終了後は次年度にピオトープフォーラム in 北海道開催の相談を受け、EPO 北海道を紹介した。
- ・ピオトープフォーラムではポスター展示が同時開催され、東北地域でも多様な活動が行われている情報を得ることができた。新たなネットワークも生まれ、今後の活動を広げる可能性が見出せた。
- ・催事を通して登壇者を始め関係者に対して「生物多様性」に関する情報や国内施策を発信し、理解を深めることができた。

【課題】

- ・ステークホルダー連携促進事業と同様に、地方環境事務所内の他課と連携事業を実施し、相互理解の不足などの課題が生じた。EPO の役割や機能を伝えること、EPO と連携・協働で事業を実施する意義を改めて協議する必要性など反省点が多く、次年度に向けて改善が課題となる。
- ・生物多様性や企業のネイチャーポジティブをテーマとするオンラインセミナーやアーカイブ配信は各地で行われており、催事開催以外の手法を用いた事業展開の模索が課題となる。
- ・生物多様性のテーマでは地域の関係団体とのつながりが弱く、継続して情報収集とネットワーク構築が求められる。

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

①みちのく薪びと祭り 2024in 宮城川崎（仕様書番号 4-（1）-ウ-（エ））

●プロジェクト概要

持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を生かした環境活動の促進を目的として創設したネットワークの更なる強化を目指すとともに、ネットワークを構成する団体等の活動や取組みを地域循環共生圏の創造へとつなげるため、交流会「みちのく薪びと祭り」を開催する。森林の適正な管理をしながら間伐材等をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組み小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合う交流の機会を設けることで参加主体の活動の活性化を図る。

●事業目的

薪をエネルギーとして活用し、地域資源や人、経済の地域循環に取り組む関係者が相互に学び合い、交流する機会を通じて参加団体の活動の活性化を図る。また、高齢化や担い手不足が深刻化する中で、あらゆる視点から「薪びと」について意見交換や議論を行い、本事業も含めた「薪びと」のあり方を考える機会として設定する。

●事業プロセス

	みちのく薪びと祭り
4月	企画打ち合わせ
5月	主催団体との打合せ
6月	企画調整 ↓
7月	キーパーソン会議
8月	広報開始
9月	開催地（町）への協力依頼
10月	みちのく薪びと祭り
11月	
12月	振り返り会議



企画打ち合せ（R6/4/18）

●達成目標

- ・薪の活用を軸に地域の環境と社会と経済が循環する社会の在り方について考え、議論し、各地域の取り組みに新たな視座を加えることで地域循環共生圏の実現に貢献する。
- ・「次世代の担い手」に焦点を当て新たなステークホルダーの巻き込みを図り、若手や学生、女性など、多様な主体の参加を得る。
- ・次年度の開催に向け、開催地や開催形態、方向性について合意が図られる。

●EPO 東北のアプローチ

- ・実施主体に企画・準備・当日運営を委託し、地域の主体性を引き出す新たな体制での運営を試行した。
- ・次年度以降の事業の参考とするため、開催後に運営に関する振り返りの場を設け、実施主体とEPO東北の役割分担のあり方について整理・分析を行った。

キーパーソン

1	薪ストーブ愛好会くべる部
2	ニツ井宝の森林プロジェクト
3	NPO 法人遠野エコネット
4	NPO 法人しんりん
5	株式会社 百
6	鶴岡市三瀬地区自治会
7	ふくしま薪ネット
8	一般社団法人湯本森・里研究所

催事名	キーパーソン会議
開催日	2024年7月22日（月）
開催形式	ハイブリット
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	16名
内容	参加メンバーの近況について情報共有を行った。みちのく薪びと祭り開催に向けて実施主体である株式会社百が企画提案を行い、意見交換を行った。 (1) 各キーパソンの近況報告 (2) 企画説明 (3) 意見交換

広報活動（メディア出演）

放映日	2024年10月1日（火）
内容	ミヤギテレビの番組「OH! バンデス」の伝言板デス！にて薪びと祭り開催のPRを行った。

開催概要

催事名	みちのく薪びと祭り 2024 in 宮城川崎
開催日	2024 年 10 月 14 日 (月・祝) ~ 15 日 (火)
開催形式	対面
会場	AONE MATKA (宮城県川崎町) ※前川小学校青根分校
参加者	約 200 名
主催	株式会社百、EPO 東北
共催	NPO 法人川崎町の資源をいかす会
後援	宮城県川崎町



講演会



エクスカーション 伐倒、皆伐萌芽更新現場見学



テーマ	① 10 年後、50 年後の薪びとを考える ② 薪づくりの進化を楽しむ
内容	1 日目 (1) 開会宣言 株式会社 百 中安祐太氏 (2) 挨拶 ① EPO 東北 井上郡康 ② 川崎町副町長 奥山隆明氏 ③ 川崎町の資源をいかす会 代表理事 齋藤勝廣氏 (3) 薪マルシェ ① 薪に関する東北内外からの体験・展示・販売など 15 団体が出展 ② 川崎町内の飲食店、川崎町地域おこし協力隊による飲食ブース出展 (4) 講演会 ① 「川崎町の森林について考える—循環する時間を求めて—」 高橋知花氏 (東北大学大学院 文学研究科 社会学研究室 助手・非常勤講師) ② 「物質・エネルギー源としての森と人のかかりと未来への展望」 峰尾恵人氏 (京都大学 科学研究所 特定助教) ③ トークセッション モデレーター 舩昌汰氏 (株式会社 百 代表取締役) パネリスト ・ 高橋知花氏 ・ 峰尾恵人氏 ・ 宮川卓士氏 (株式会社百) (5) 講評 新妻弘明氏 (東北大学 名誉教授、日本 EIMY 研究所 所長)
2 日目	(1) エクスカーション 【視察】 ① 伐倒、皆伐萌芽更新現場見学：川崎町の資源をいかす会 (六方山) ② 百のやど見学：株式会社 百 ③ 薪を利用した地ビールの製造工場見学：Forest Brewing (2) クロージング ① 次年度開催について 井上郡康 (EPO 東北 統括) ② 閉会挨拶 中安祐太氏 (株式会社 百)



OHI バンデス (ミヤギテレビ) 番組内「伝言板デス！」にて告知の様子

感想
(抜粋)

- みんなで楽しめるコンテンツが多く、薪ストーブを持っていない我々ですが、家族で楽しませていただきました。
- これから林業にも関心を持って活動したいと思っていたので、たくさんの知識を得られ次に活かしたいと思った。
- これだけ多くの薪に関わる方々と、情報交換をして時間を一緒に過ごせたことが本当によかった。今回できたつながりを大切に、薪づくり、森林活動をこれからも進めていきたい。
- マルシェ形式にすることで、関連する事業者が集まって交流が深められたこと、一般のお客様にもまきびとの事業内容や自分たちの事業をPRできて良かった。
- 百の方からお声がけいただき出展させていただきました。同年代の方もいらっちゃって、薪ストーブや薪ボイラーのことについて話し、考えを共有できたことが本当にうれしかったです。



薪マルシェ



トークセッション



フィールドワーク 百のやど見学

●事業総括

【成果】

- 初めての試みとして企画運営を開催地のキーパーソンが担い、EPO 東北が運営をサポートする新たな役割分担のもと開催した。実施主体にとっては企画運営のノウハウを得る機会となり、宮城版のみちのく薪びと祭りを独自開催する方向で議論が始まるに至った。他県でも同様の運営を実施することで、各県版のみちのく薪びと祭りを派生させながら地域内ネットワークの深化と広域ネットワークの構築が期待でき、今後の事業展開の新しい可能性が見出せた。
- 宮城開催に当たっては県内の団体に参加を呼びかけ、相互交流を通して主催団体にとって新しいつながりを得る機会となり、今後の事業連携に向けた関係構築につながった。
- 実施主体の提案によりみちのく薪びと祭りの中で「薪マルシェ」を実施し、広く一般市民や地元住民の参加が得られた。

【課題】

- これまで EPO 東北の業務負担が指摘されてきたが、新たな運営体制により業務の軽減につながった。一方で、関係者からは「EPO 東北の存在が見えにくかった」「もう少し前に出てきても良かったのでは」との指摘もあり、適切な役割分担について再検討が必要である。
- 運営のサポートにあたっては、連絡体制やスケジュール管理などに苦慮した。実施主体からもフォーマット化の提案を受けており、これまで EPO 東北に蓄積してきたノウハウを整理し、汎用性を持たせながら言語化・フォーマット化するなど、新しい事業展開に即した対応が課題となる。
- 参加者同士の相互交流の時間を重視した結果、ディスカッションの時間が短く、全体の時間配分の中で「交流」と「学び」のバランスは毎年課題となっている。企画趣旨に合わせた調整を行うとともに、新しい手法を取り入れるなどの工夫が求められる。

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) 運営

①企画運営委員会の開催運営等（仕様書番号 4-（2）- ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	見上一幸	(公社) 仙台ユネスコ協会 会長、宮城教育大学 名誉教授
副委員長	渋谷晃太郎	岩手県立大学 研究・地域連携本部 地域連携コーディネーター
委員	浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携センター主任運営員（運営統括）
	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 国際教育領域 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
	齋藤修一	只見町教育委員会 元教育長
	福岡真理子	(一社) あきた地球環境会議 理事・事務局長、地域 ESD 活動推進拠点
	笹木めぐみ	福島県生活環境部生活環境総務課課長
	上村隆之	青森県環境エネルギー部環境政策課 課長



第2回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会（R7/2/3）

●開催

第1回 EPO 東北事業検討委員会並びに第1回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会	
開催日	2024 年 5 月 27 日（月）
形式	対面中心のハイブリット
会場	HUMOS5 A ホール（宮城県仙台市）
参加者	31 名（委員 12 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ① R6 年度事業計画について ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会 ① R6 年度事業計画について ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	・地域 ESD 拠点について教員への知名度を上げることが課題と感じる。活動レポート 2023 は発信に工夫をお願いしたい。 ・学校と地域をつなぐコーディネーターを岩手にも配置してほしい。 ・只見町で開催する東北 ESD/SDGs フォーラムと、中期計画の最終年度の関係はどのような整理で考えているか。 ・学び合いプロジェクトは気候変動以外に脱炭素、生物多様性など他の要素を加えて、複合的な企画を検討する必要があるのではないか。学生は「削減」について学ぶことが腑に落ちない。逆に都会は排出の責任の重さを学ぶ必要がある。地域によってとらえ方、教え方を変える必要がある。

第2回 EPO 東北事業検討委員会並びに第2回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会	
開催日	2025 年 2 月 3 日（月）
形式	対面中心のハイブリット
会場	HUMOS5 A ホール（宮城県仙台市）
参加者	30 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 6 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会 ①令和 6 年度事業報告 ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	・ESD を進める時に教育委員会が果たす中間支援の役割は大きい。地域コーディネーターの活動は教育委員会を巻き込んで行われており、これまでにない取組みの1つと思っている。 ・地域 ESD 拠点を活かしきれていないのではないか。中間支援団体として活動している所もあるので、活かし方を考えてほしい。 ・学校では ESD、SDGs を勉強して知識は増え、意識も高まっているが、具体的な活動がついて来っていない。行動に結び付けたい。 ・環境教育について、生物多様性は大事だが非常に難しい。多様でなければいけないことを体験するのは難しいし、教える教師側の実力必要になる。

2) 基本業務

① ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供等（仕様書番号 4-（2）-イ）

●情報収集

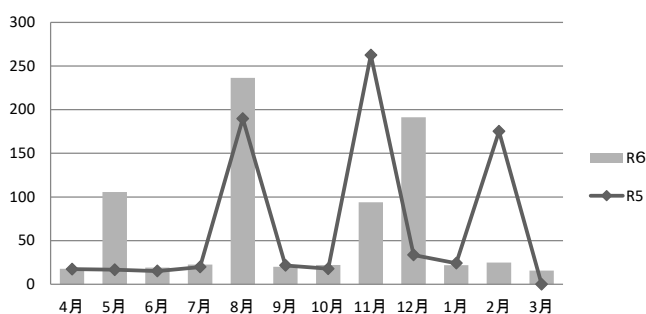
学校現場では ESD 型の探求授業の在り方を模索していることから、関係者へのヒアリングおよび情報収集に努めた。また、企業における人材育成や ESD に関心のある青年会議所やユネスコ協会等、多様な主体との情報交換を行った。

●情報発信

ウェブサイトおよびメールマガジンを活用し、環境活動や ESD、SDGs に関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。地域 ESD 拠点の活動レポートを作成してウェブサイトに掲載し、東北 ESD センターの紹介と合わせて冊子にとりまとめた。個別ページの PDF データ共有や印刷配布を行った。

① -1. ウェブサイト

ウェブサイトページビュー数 1 日平均 66 件



※メールマガジンは EPO 東北事業報告を参照

① -2. パンフレット

冊子名	東北地方 ESD 活動支援センター 活動レポート 2024
ページ数	28 ページ
発行部数	800 部
構成	(1) 東北地方 ESD 活動支援センター紹介 ・ ESD とは ・ ESD の変遷 ・ ESD と SDGs の関係 ・ 4 つの機能 (4) 地域 ESD 活動推進拠点とは (5) 地域 ESD 活動推進拠点 活動レポート (6) 東北地方 ESD 活動支援センター 活動レポート
補足	・ 地域 ESD 活動推進拠点が活用できるよう PDF パンフレットを作成し、校了した原稿から順次ウェブサイトに掲載した。 ・ 地域 ESD 活動推進拠点レポート 掲載件数：9 件 掲載見送り：2 件 ※登録団体 21 件、R5 年度掲載済 10 件 ・ 年度末に東北地方 ESD 活動支援センター紹介のページと合わせて冊子化した。



第 1 回気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会 (R6/6/21)



東北地区高校生 SDGs セミナー 2023 (R6/7/27)

② ESD 活動に関する相談・支援窓口（仕様書番号 4-（2）-ウ）

② -1.ESD 活動に関する相談及び支援

共催

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	6/21	令和 6 年度 第 1 回 気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会	気仙沼市教育委員会、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	宮城県 気仙沼市
2	10/31	気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2024	気仙沼市教育委員会、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会、宮城教育大学、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	宮城県 気仙沼市
3	1/17	令和 6 年度 第 2 回 気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会	気仙沼市教育委員会、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	宮城県 気仙沼市

後援

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	8/20～ 3/31	第 16 回環境教育ポスターコンクール	公益財団法人こども教育支援財団	全国
2	10/12 ～14	海辺の環境教育フォーラム 2024in ふくしま	海辺の環境教育フォーラム 2024 実行委員会	福島県 いわき市

活動支援・協力

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	8/1	<全国ユース環境ネットワーク> 2024 東北地区高校生 SDGs セミナー夏 「生物多様性と SDGs ～高校生同士の SDGs 意見交換会」	独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局	宮城県 仙台市
2	—	宮城県教育旅行ガイドブック ※ SDGs 探究学習特化型プログラムに東北地方 ESD 活動支援センターも掲載。	みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター	宮城県
3	10/31	大仙市立大曲南中学校・キリバスオンライン 交流授業	大仙市立大曲南中学校	秋田県 大仙市
4	—	「気候変動教育のモデルづくり」に向けた気候 変動教育実施事例	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット	全国

催事・会議等参加

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	11/15	只見町 ESD 授業研究会	只見町教育委員会	福島県 只見町

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介

相談対応件数 28 件
等 対話の機会数 48 件



大仙市立大曲南中学校・キリバスオンライン交流授業（R6/10/31）

②-2.ESD 地域コーディネーター

運営第6期は「外部リソースを活用した運営体制の構築」を目標に掲げ、令和4年度から「ESD 地域コーディネーター」を運用してきた。青森県、宮城県、福島県の3県に1名ずつ配置し、ESD 活動の活性化を目指して活動に取り組んでもらうと共に、東北地方 ESD 活動支援センター事業における連携・協働を試みた。ESD 地域コーディネーターが活動の中で得た地域のニーズや課題を参考にしながら、共に事業の企画・運営を行った。

活動地域	青森県	宮城県	福島県
氏名	貝森毅彦氏 ・青森県地球温暖化防止活動推進員 ・元小学校校長	内藤恵子氏 ・公益社団法人仙台ユネスコ協会 副会長・ESD 推進委員長 ・元小学校校長	齋藤修一氏 ・元只見町教育委員会 教育長 ・東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員 ・福島県地球温暖化防止活動推進員
各県での活動	①青森県義務教育教科等指導主事 連絡協議会での情報提供 ②青森内小学校における ESD 授業の実践・支援および情報収集 ③令和6年度東青地区小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 夏季研修会への講師協力	① ESD 実践の情報収集	①ネットワーク構築（行政、学校、企業、NPO、ユネスコ協会等へのヒアリング訪問） ②郡山市立学校長会議での情報提供
東北センター事業	【事業】 ESD 推進地域研修会 【活動】 企画調整・対象者との調整・実施運営	【事業】 ESDfor2030 学び合いプロジェクト 【活動】 企画調整、対象者との調整、実施運営	【事業】 東北 ESD/SDGs フォーラム 【活動】 全体企画調整、登壇者・関係者調整



第1回勉強会（R6/5/28）



第2回勉強会（R6/12/20）



第3回勉強会（R6/12/21）



齋藤コーディネーター：郡山市立学校長会議での情報提供（R6/7/9）

●定例ミーティング

全4回の定例MTGを実施し、活動の成果や課題を共有した。また、コーディネーターが活動に取り組む上で学びたいテーマの要望を受けて、定例ミーティングの中で勉強会を実施し、学び合いの場の形成に努めた。

	開催日	形式	会場	参加	内容
第1回	5月28日(火)	対面	EPO 東北 (宮城県仙台市)	9名	【令和6年度キックオフミーティング】 東北 ESD センター事業予定と各コーディネーターの今年度の計画を共有し、意見交換を行った。 (1) 東北地方ESD活動支援センター事業、コーディネーター業務の共有 (2) 各コーディネーターの活動共有 (3) 全体質疑応答・ディスカッション
第2回	12月20日(金)	対面		11名	【勉強会】 企業におけるESDを学ぶため講師を招聘し、コーディネーターの活動との連動性を考える意見交換を行った。 講師：宇佐美恵理氏(株式会社ジェイアール東日本企画 ソーシャルビジネスプロデュース局) (1) 趣旨説明 (2) 講師からの活動紹介 (3) 各コーディネーターの活動共有 (4) 意見交換
第3回	12月21日(土)	対面	宮城教育大学 420番教室 (宮城県仙台市)	約60名	【視察】 2024年度ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会 児童生徒の探究型学習・課題研究発表へ参加し、ESD実践校の事例を学んだ。 (1) ユネスコスクール9校の実践発表 (2) 情報交換会、ポスター発表参観 (3) 表彰・講評
第4回	3月27日(木)	対面	EPO 東北 (宮城県仙台市)	7名	【令和6年度振り返り会】 各コーディネーターが今年度の活動を報告し、次年度の活動に向けた意見交換を行った。 (1) 各コーディネーターの今年度活動報告 (2) 活動報告に対する質疑応答 (3) 次年度の活動に向けた意見交換

●事業総括

【成果】

- ・東北地方ESD活動支援センターとESD地域コーディネーターの連携のあり方や、互いのネットワークの接続が課題になっていたが、情報共有の体制や定例ミーティングの持ち方等も見直し、運営体制の構築及び連携に向けた知見の蓄積ができた。
- ・今年度は東北地方ESD活動支援センター事業においてESD地域コーディネーターが主体的に動き、東北地方ESD活動支援センターがサポートする体制を試行した。ESD地域コーディネーターのネットワークが活かされ、地域に寄り添った企画を実施することができた。
- ・ESD地域コーディネーターに地域の主体から相談が寄せられることも増え、東北地方ESD活動支援センターにとっても新たな主体との連携、ネットワークの広がりにつながった。

【課題】

- ・博物館や動物園・水族館等の施設との連携及び企業との連携は依然として弱い分野である。対象となる主体が求めるニーズやシーズの情報が不足しており、ネットワークの拡大・強化に向けてヒアリングを中心とした情報収集を行うこと、主体に合わせた連携及び活動支援が行えるようスキルアップと共に多様なアプローチを学ぶ必要がある。
- ・企画運営委員会では東北地方ESD活動支援センターやESD地域コーディネーターの活動について、もっと積極的なPRが必要との指摘も受けており、発信のあり方とともに発信媒体の見直しおよび改善が課題となる。

3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

① ESDfor2030 学び合いプロジェクトの企画及び実施（仕様書番号 4-（2）-エ-（ア））

●プロジェクト概要

第2期 ESD 国内実施計画（2021 年 5 月策定）の中で位置づけられた「テーマ別の学び合いの仕組み」であり、実施を通して ESD 活動の高度化を図る。全国 8 か所の地方 ESD 活動支援センターが強みを活かしてテーマを設定し、プロジェクトを運営する。様々な主体が地域を超えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通じて各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の仕組みを全国に広めていくことを目的としている。

●事業目的

ESD 推進ネットワーク*で注力している、気候変動を切り口とした ESD「気候変動教育」を軸に、学び合いの機会の提供を目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画する。実施にあたっては ESD 地域コーディネーター及び地域 ESD 推進拠点と連携し、地域特性を活かしたモデルプログラムの創出に取組む。

※ ESD 推進ネットワーク：持続可能な開発のための教育（ESD）を全国各地で推進するためのオープンネットワーク。ESD に関わる多様な主体が、地域における取り組みを核としつつ、分野横断的に協働・連携して ESD を推進することを目的としている。

●事業プロセス

東北 ESD / SDGs フォーラム	
4 月	企画検討
5 月	企画打合せ 関係者への説明・依頼
6 月	市民センターとの打合せ
7 月	作業部会①
8 月	勉強会広報開始
9 月	勉強会①
10 月	勉強会②・③ ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム（12/1） での活動報告
11 月	企画会議①・②
12 月	実践活動広報開始
1 月	
2 月	実践活動 意見交換会
3 月	

●達成目標

- ESD 地域コーディネーターが主体となり、地域のニーズに合った企画を実施する。
- 市民施設が地域住民を対象に実施する市民講座の中に気候変動の視点を入れ、企画作りのノウハウを身に付ける。

●東北地方 ESD 活動支援センターのアプローチ

- 勉強会で学んだ内容の実践に向けて、職員をサポートする目的で企画会議の実施を提案した。市民センターが主導して会議を実施し、企画検討の議論が行われた。
- 本企画をモデルに他の市民センターへも波及するよう、関係者及び他の市民センターへも参加を呼びかけた。



関係者ヒアリング（R6/6/4）



実践活動開催打合せ（R6/12/19）

開催概要

【勉強会】

全体共通催事名：学びませんか？「SDGs 市民講座のつくり方」			
回	第1回	第2回	第3回
テーマ	企画を組み立てるコツ (講座)	地域防災講座を企画しよう (ワークショップ)	発信・広報のコツ (ワークショップ)
開催日	2024年9月21日(土)	2024年10月8日(火)	2024年10月29日(火)
開催形式	対面	対面	対面
会場	仙台市桂市民センター 第1会議室(宮城県仙台市)		
参加者	18名	12名	12名
	桂市民センタースタッフ、仙台防災リーダー、町内会防災担当、他地区市民センタースタッフ、ESD 地域コーディネーター、東北地方 ESD 活動支援センタースタッフ		
主催	仙台市桂市民センター		
共催	東北地方 ESD 活動支援センター		
講師	西直人氏(東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科 准教授、リードクライム株式会社 代表取締役)		
内容	「伝わる」をキーワードに企画を組み立てるコツを学んだ。参加者同士で「伝わる」スピーチのトレーニングを交えながら、「誰にどんなことを伝え、自分事としての捉えることができる講座にするか」を話し合った。	2月に開催する防災講座のターゲットや達成目標、企画のアイデア出しを行いながら企画内容の整理を行った。個人ワークとグループワークを交えながら学びを深めた。	前回考えた企画案の効果的な情報発信をテーマに、ターゲットに伝わる発信をするための工夫や視覚で伝える表現を学び、参加者同士で意見交換を行った。

【企画会議】

実践活動実施に向けた企画会議を桂市民センター主導で実施した。
(東北地方 ESD 活動支援センターはオブザーバー参加)

地域防災講座実施に向けた企画会議		
回	第1回	第2回
開催日	2024年11月9日(土)	2024年11月23日(土)
開催形式	対面	対面
会場	仙台市桂市民センター 第1会議室(宮城県仙台市)	
参加者	7名	6名
	桂市民センタースタッフ、仙台防災リーダー、町内会防災担当、ESD 地域コーディネーター、東北地方 ESD 活動支援センタースタッフ	
内容	これまでの勉強会での学びを振り返り、企画内容のブラッシュアップに向けた意見交換を行った。	企画内容を再度確認し、広報に向けたスケジュール確認と役割分担を行った。



第1回勉強会 (R6/9/21)



第2回勉強会 (R6/10/8)

【実践活動】

催事名	教えて斎藤さん！ ～お天気のあんなことこんなこと～
開催日	2025 年 2 月 1 日（土）
開催形式	対面
会場	仙台市桂市民センター 第 1 会議室 （宮城県仙台市）
主催	仙台市桂市民センター
共催	東北地方 ESD 活動支援センター
参加者	66 名
講師	斎藤恭紀氏（福島テレビ株式会社 営業・メディア本部 報道局報道部 気象予報士・防災士）
内容	気候変動の基礎情報や災害時の個人個人ができる対応を学ぶ講座を実施した。開催場所の仙台市桂地区の情報も交えた内容をお話しいただいた。 （１）講師紹介 （２）講演①「知る」 気候に関する用語やメカニズム等の基礎知識を学ぶ （３）講演②「対応力」 災害時にできる個人・家族を守る対応また備えを学ぶ
感想（抜粋）	・身近な問題をわかりやすく、端的にお話いただき改めて防災意識を持つことができました。活力あるお話に力をいただきました。 ・気候変動による災害のリスクは考えていたより大きなことと驚いた。 ・水害の話が非常に参考になった。住居付近を再考しようと思う。 ・自分自身が防災等に意識を高めていかなければいけないと思った。今日聞いた話をたくさんの人に伝えていきたいと思う。 ・避難訓練の他にこうした講座が開かれていることを初めて知りました。斎藤さんの話は、分かりやすく過去の事例も取り上げて、より身近な危険を考え直すきっかけになった。

【意見交換会】

催事名	ESDfor2030 学び合いプロジェクト 「市民施設における気候変動教育」 振り返り意見交換会
開催日	2025 年 3 月 13 日（木）
開催形式	ハイブリット形式
会場	仙台市桂市民センター 第 1 回会議室 （宮城県仙台市）
参加者	15 名
内容	今年度の実施内容について、東北 ESD センターと実施施設から報告を行い、全体の成果と課題の整理を行う意見交換を実施した。 （１）プロジェクト概要の報告 東北 ESD センター 小泉照 （２）実施内容の詳細報告 ESD 地域コーディネーター 内藤恵子氏 （３）実施の感想と今後の展望 仙台市桂市民センター館長 板垣和幸氏 （４）意見交換
感想（抜粋）	・地域の SBL（仙台防災リーダー）を市民センターの活動に巻き込むのかこれまで課題としてあったが、今回のプロジェクトで企画運営に関わってもらえたことは大きな成果であった。 ・社会教育、生涯教育として気候変動を取り上げることがとても重要で、今回市民センターが中心に学びの機会を創出できたことは、市民にとって大変有意義な機会だったのではないか。 ・本プロジェクトが最終的に市民センターのスタッフと地域住民の双方が学びを得られる機会となっていたことが素晴らしいかった。 ・地域に近い存在として、地域課題を取り上げ活動する市民センターが、地球規模の課題をどのように取り上げるのかより工夫と整理が必要だと感じた。



実践活動（R7//2/1）



振り返り意見交換会（R7//3/13）

②ノウハウの共有と推進に関する方策の検討（仕様書番号 4-（2）-エ-（イ））

催事名	第1回 気候変動教育作業部会
開催日	2024年7月25日（木）
開催形式	対面を中心としたハイブリット形式
会場	青山ブックセンター 大教室（東京都渋谷区）
参加	53名
内容	ESDfor2030 学び合いプロジェクトを中心として取り組む「気候変動教育」について各地域の状況を踏まえた今後の展開やとりまとめを議論した。 (1) 作業部会のスケジュール及びねらいの説明 (2) 話題提供：気候変動教育に関する最新動向 ①白井信雄氏（武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 教授） ②遠藤理紗氏（特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター 事務局次長） (3) 各地方センター学び合いプロジェクトの説明 (4) 意見交換



第1回 気候変動教育作業部会（R6/7/25）

催事名	第2回気候変動教育作業部会
開催日	2025年2月25日（火）
開催形式	ハイブリット形式
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
参加	約30名
内容	「気候変動教育」の今後の展開を議論するため、各地方センターから今年度のESDfor2030 学び合いプロジェクトの活動報告を踏まえ、全体の意見交換を行った。 (1) 話題提供：気候変動に関する国民意識の状況、問題点 白井信雄氏（武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 教授） (2) ESDfor2030 学び合いプロジェクト説明（8 地方センター） (3) 意見交換：学び合いプロジェクト、気候変動教育の今後の進め方



第2回気候変動教育作業部会（R7/2/25）

●事業総括

【成果】

- ESD 地域コーディネーターの働きかけにより、市民センターとの連携企画を実施できた。これをきっかけに仙台市内の市民センターや管轄する仙台市の担当課、仙台市教育委員会ともつながりができ、ネットワークを広げることができた。
- 市民センターが実施する講座の中に気候変動の視点を加える、新しいアプローチで事業を実施した。市民センターのニーズに寄り添い、他の企画を考える時にも活用できるような学びを得ること、実践の場で小さな成功体験を積むことに留意した。職員からは市民を巻き込んだ講座企画・運営のイメージを得ることができたと振り返りがあり、事業の実施を通して市民センター職員の学びとノウハウの蓄積につなげることができた。

【課題】

- これまで市民センターとの連携実績がなかったことから、相互理解に時間を要した。仙台市独自の仕組みの理解、関係主体への働きかけが必要であり、市民センターとの関係構築に苦慮した。東北地方 ESD 活動支援センターや事業内容を伝える工夫が必要であった。また、企画調整のタイミングや関係構築のためのアプローチを含めた事業設計が課題となる。
- ESD 地域コーディネーターが主体となって市民センターとの調整に当たったが、勉強会や企画会議の実施に当たっては東北地方 ESD 活動支援センターと市民センター間での連絡調整もあり、役割分担とともに事業の進め方は工夫と改善が求められる。

4) 東北 ESD / SDGs フォーラム等の開催（仕様書番号 4-（2）- オ -（ア））

●プロジェクト概要

東北地域の ESD 実践者またはこれから ESD に取り組もうとする方を対象に、ESD に関する情報発信と交流を通して活動を促進するとともに、東北地域のゆるやかなネットワーク形成をを目指してフォーラムを開催する。また、開催地における関係者の連携をつなぐこと、新たな人材の発掘に留意して多様な主体との連携・協働のもとで企画・運営に取り組み、フォーラム開催後も地域で活用されるネットワークの構築を支援する。

●事業目的

「地域の持続可能性のための ESD/SDGs」の視点から地域事例を学ぶことを目的に、福島県只見町において地域全体（ホールエリア）で取り組まれてきた ESD 活動に注目し、ユネスコエコパーク、地域の伝統文化、地元企業および生産者など多様な主体による取り組み事例を発信する。地域住民に対して改めて取り組みの価値を見つめ直すこと、オンライン配信により只見町の取り組みを全国に向けて発信する機会とする。

●事業プロセス

東北 ESD / SDGs フォーラム	
5月	企画検討
6月	企画打合せ
7月	
8月	登壇依頼
9月	配信打合せ 会場打合せ
10月	広報開始
11月	フォーラム
12月	アーカイブ配信
1月	

●達成目標

- ・地域全体で ESD に取り組むことの重要性とともに、多様な主体が地域で果たすことの意義や、連携・協働の必要性の理解が深まる。
- ・地域住民が改めて地元の取り組みを理解し、活動に対する主体性が増す。
- ・福島県内の ESD 活動促進に向けて、只見町を中心に ESD 推進ネットワークが拡充する。

●東北地方 ESD 活動支援センターのアプローチ

- ・ ESD 地域コーディネーターが主導し、只見町の ESD 活動に焦点を当てた企画を組み立てた。東北 ESD センターが課題としてきた「企業の ESD」も念頭に置き、多様なセクターが取組紹介を行う内容とした。
- ・ 動画配信および録画は地元業者に依頼して事務局の業務負担軽減を図るとともに、東北 ESD センターのネットワーク拡充に留意した。



体験活動（手前）只見の手毬（奥）ぜんまい綿毛のコースター

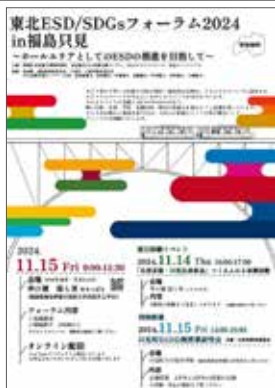


フォーラム会場の様子



斎藤恭紀氏の基調講演

開催概要

催事名	東北 ESD/SDGs フォーラム 2024in 福島只見 ～ホールエリアとしての ESD の推進を目指して～		
開催日	2024 年 11 月 14 日（木）～ 15 日（金）		
開催形式	ハイブリット		
会場	季の郷 湯ら里（福島県只見町）		
参加者	会場参加	90 名	
	オンライン参加	15 名（最高瞬間視聴率）	
動画配信	形式	YouTube 配信	
	配信期間	12 月 26 日（木）～ 1 月 31 日（金）	
	視聴回数	55 回	
主催	環境省 東北地方環境事務所、東北地方 ESD 活動支援センター、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム		
後援	福島県、福島県教育委員会、只見町、只見町教育委員会、ESD 活動支援センター（全国、北海道地方、関東地方、中部地方、近畿地方、中国地方、四国地方、九州地方）		
内容	11 月 14 日（1 日目） 体験活動		
	体験内容	「自然首都・只見伝承産品」つくる触れる体験活動 ① つる細工によるストラップ作成／明和民芸品保存会 ② 只見の手鞠（てんまり）／ちよの会 ③ ぜんまい綿毛のコースター／つむぎや ikuko	
	11 月 15 日（2 日目） フォーラム		
	司会	鈴木美紀子（東北地方 ESD 活動支援センター）	
	開会挨拶	見上一幸氏（東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員長）	
	基調講演	「ユネスコエコパークの町只見への期待～ ESD/SDGs の推進に向けて～」 斎藤恭紀氏（福島テレビ株式会社 営業・メディア本部 報道局報道部 気象予報士・防災士）	
	取組紹介	① 「ユネスコエコパークとしてのまちづくり」 渡部勇夫氏（只見町町長）	
		② 「只見から世界をめざすものづくり」 鈴木誠氏（株式会社社会津工場 取締役統括本部長）	
		③ 「持続可能な地域をめざす農業の役割」 三瓶清志氏（有限会社さんべ農園 代表）	
		④ 「ESD を通したまちづくり」 目黒祐紀氏（只見町中央公民館 館長）	
		⑤ 「手鞠復活への思いと夢」 渡部ヨリ子（ちよの会 代表）	
	閉会挨拶	市瀬智紀氏（ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 運営委員長）	
参加者の声	・ ESD/SDGs への取組みには地域全体の意識の高まりが必要と再認識できました。 ・ グローバルな視点で地域ができる取組みはグローバルとして認識されるようになり久しいですが、これまでの取組みは視野を広げることばかりでローカルの視点が足りなかったのではないかと感じました。 ・ SDGs はよく聞きますが、ESD 教育のことを知り、次世代を担う教育が小さいころから学ばれて育っていることに心から感動し応援したいと思います。 ・ どんな小さな取組みも個人（少人数）からでもまた高齢になってからでも未来につながる取組みができるんだということを心に止めたいと思います。 ・ これまでの先人が行ってきたごく当たり前のことが、いま世界から求められている ESD や SDGs だったと感じた。		

●事業総括

【成果】

- ・ 事例紹介では学校教育、社会教育、生涯教育における ESD を取り上げ、「地域資源の活かし方が勉強になった」「持ち帰って参考にできるところが多くあった」等の感想が寄せられた。各地の ESD 活動を後押しする学びの機会を提供できた。
- ・ 対面もオンラインも東北外から参加があり、「東北地方との交流を深めたい」と感想が寄せられた。これまでは東北各県の事例を紹介するなど「東北」を意識したフォーラムを企画してきたが、地域の独自性・独自性に焦点を当てることで関心を誘い、広域のネットワーク形成の可能性が見い出せた。

【課題】

- ・ 同日に各地で大型イベントが開催され、集客に苦慮した。事前にアーカイブ配信の問い合わせもあり、当日に会場へ参集しないスタイルの定着がみられる。開催時期や開催方法と合わせて広報戦略の検討が課題となる。
- ・ アンケートでは困りごととして「組織の中で理解が得られない」「体制基盤に課題がある」「活動の資金不足」と答える方が多かった。事例の発信やネットワークづくりの他、ESD 推進の課題として挙げられているテーマに対して東北地方 ESD 活動支援センターが何ができるのか、今後の検討課題となる。

5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援（仕様書番号 4-（2）-オ-（イ））

●地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）について

ESD 推進ネットワーク※の趣旨に賛同して地域の ESD を支援する組織や施設に登録いただく登録制度で、地方センターのパートナーとして、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されている。

※ ESD 推進ネットワーク：P66 に記載



●地域 ESD 活動推進拠点 活動レポートの作成

掲載	9 団体
電子媒体	PDF データをウェブサイトに掲載
紙媒体	冊子 800 部
備考	R5 年度に 10 団体掲載済。未掲載 11 団体 中 9 団体を掲載、2 団体は掲載辞退

●[全国] 登録団体 199 件（2024.12.9 現在）

●[東北] 登録団体 21 団体（R5 年度：21 団体）

NO.	県	団体名
1	青森	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター
2		八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
3		青森市教育委員会
4		青森市立千刈小学校
5		青森市立堤小学校
6		青森大学
7	岩手	NPO 法人環境パートナーシップいわて
8	宮城	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
9		公益社団法人仙台ユネスコ協会
10		気仙沼 ESD / RCE 推進委員会
11		一般社団法人日本キリバス協会
12		NPO 法人 LEAF26
13		一般社団法人あきた地球環境会議
14	秋田	認定 NPO 法人 環境あきた県民フォーラム
15	山形	NPO 法人環境ネットやまがた
16	福島	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
17		福島工業高等専門学校
18		只見町教育委員会
19		会津ユネスコ協会
20		いわきユネスコ協会
21		独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家



地域 ESD 活動推進拠点 活動レポート



●事業総括

【成果】

- ・地域 ESD 拠点の情報発信が課題となっていたことから、R5 年度から地域 ESD 拠点の活動レポートの作成・発信に取り組んだ。昨年度作成した冊子および PDF データは、各団体が PR ツールとして活用している。東北地方 ESD 活動支援センターによる活動支援のあり方の一つとして捉えている。
- ・東北地方 ESD 活動支援センターでも活動事例およびセンターの事業紹介、または ESD や SDGs の基礎情報を紹介するツールとして活用した。これを踏まえて今年度は東北 ESD/SDGs フォーラムや ESD 地域コーディネーターの活動紹介のページを盛り込んだ。

【課題】

- ・地域 ESD 拠点活動レポートについて、2 団体から辞退の申し出を受けて掲載を見送った。地域 ESD 拠点に対する活動支援や連携のあり方について改善が求められる。他の地方 ESD 活動支援センターの取組みも参考にしながら、東北地方 ESD 活動支援センターから各地域 ESD 拠点に働きかける機会を増やし、顔の見える関係づくりや、学び合いの場づくり、連携の仕組みづくりが課題となる。

6) ESD 推進地域研修会（仕様書番号 4-（2）-オ-（ウ））

●プロジェクト概要

東北地方における ESD 活動の実践を支援するため、東北地方 ESD 活動支援センター独自の事業として実施する。ESD 地域コーディネーター、地域 ESD 拠点との連携・協働を軸としながら、地域の主体からの相談に応じて ESD 実践者に対する学びの機会の提供、または ESD 活動の支援を行い、活動のすそ野を広げる。

●事業目的

ESD 実践者やこれから取り組もうとする主体を対象に学びの機会を設けることで、地域の ESD 活動を後押しすること、ESD 活動を担う人材育成に資することを目的とする。また、人材の発掘や活動への支援を通してネットワークの拡大に努める。

●達成目標

- ESD 活動の推進に向けて、地域からの相談に応じてニーズに応じた ESD 研修会を実施する。
- ESD 地域コーディネーターが主体を担う場合、コーディネーター自身が地域または相談者が抱える課題やニーズを把握すること、地域事情に応じた企画内容を検討・実施できるようになることを目指す。

●東北 ESD センターのアプローチ

- 地域 ESD 拠点および ESD 地域コーディネーターの活動をサポートするため、R5 年度事業のフォローアップを行った。
- ESD 地域コーディネーターと連携し、圏域を超えて ESD 活動支援を推進した。また、コーディネーターに寄せられた相談に東北地方 ESD 活動支援センターが対応した。

【ESD 研修会①】

催事名	ゲストティチャーに聞く気候変動の影響
開催日	2024 年 9 月 18 日（水）
開催形式	対面
会場	青森市立堤小学校（青森県青森市）
参加者	6 学年 60 名
主催	青森市立堤小学校
内容	生徒が質問する形式でゲストティチャーから気候変動の影響を伺い、青森における現状から気候変動を学ぶ授業を実施した。 ①野菜や農家への影響／澁谷扶美子氏（澁谷種苗店） ②リンゴへの影響／川村富子氏（青森観光リンゴ園 まるせん川村） ③ホタテ、漁業への影響／中村拓也氏（ホタテ漁師）
備考	昨年度事業のフォローアップ 【企画・運営】 ESD 地域コーディネーター 貝森毅彦氏



ゲストティチャーに聞く気候変動の影響（R6/9/18）

【ESD 研修会②】

催事名	会津若松市立第六中学校 SDGs 研修
開催日	2024 年 12 月 3 日（火）
開催形式	対面
会場	会津若松市立第六中学校（福島県会津若松市）
参加者	1 ～ 3 年生、教員 計 95 名
主催	会津若松市立第六中学校
内容	台湾の中学生との SDGs 交流に向けた事前学習として 2 回の SDGs 研修が企画され、2 回目の研修会で東北地方 ESD 活動支援センター鈴木が講師を務めた。 ①特別授業 SDGs 研修 ②グループワーク SDGs ワークシートを活用しながら、一番気になるテーマと理由を話し合った。
生徒の感想	• 知って、考え、行動することが大切だと思った。自分は特に環境関連に関心があったのでボイ捨てをしない、3R を意識して生活することなどを大切にしたい。 • 大切なことがわかってよりよい生活ができると思う。日常生活でできる小さなことが、長期的に大きな影響を与えることを学びました。 • 今までの自分の知識では気付かなかったことに気づくことができた、話し合いで SDGs への意識を高めることができたと思います。 • 自分たちの生活の中にも SDGs が繋がっていることがわかりました。そして「他人を思いやる心」も大切だとわかりました。 • 台湾交流事業では SDGs 講演会で学んだことを参考に自分から意見を出したい。
備考	【相談対応】 ESD 地域コーディネーター 齋藤修一氏

【ESD 研修会③】

催事名	ゼロカーボンに向けたユース活動の意見交換会
開催日	2025 年 3 月 7 日（金）
開催形式	ハイブリット
会場	【青森会場】 青森県庁 北棟 7 階 環境エネルギー部 A 会議室（青森県青森市） 【岩手会場】 岩手県民情報交流センター アイーナ5階
参加者	22 名（青森県地球温暖化防止活動推進員、 青森大学、ICFA（いわてカーボンフリーアクション））
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
共催	NPO 法人青森環境パートナーシップセン ター、NPO 法人環境パートナーシップいわ て
後援	青森県、岩手県
協力	青森大学 SDGs 研究センター
内容	青森県と岩手県のユース（高校生・大学生） がゼロカーボンの実現に向けた活動の発展に つながる機会として意見交換会を実施し、そ れぞれの活動紹介、話題提供、意見交換を行 った。
備考	【連携する ESD 推進拠点】 NPO 法人青森環 境パートナーシップセンター、学校法人青 森山田学園 青森大学、NPO 法人環境パ ートナーシップいわて



ゼロカーボンに向けたユース活動の意見交換会【岩手会場】（R7/3/7）



ゼロカーボンに向けたユース活動の意見交換会【青森会場】（R7/3/7）



会津若松市立第六中学校 SDGs 研修（R6/12/3）



会津若松市立第六中学校 SDGs 研修グループワーク（R6/12/3）

●事業総括

【成果】

- ・昨年度に引き続き、地域 ESD 拠点である青森市立堤小学校で気候変動をテーマとした授業を実施した。昨年度事業のフォローアップを兼ねて ESD 地域コーディネーターが調整を行い、継続的な連携および支援につなげることができた。
- ・ESD 地域コーディネーターが相談を受けて東北地方 ESD 活動支援センタースタッフが対応するケースも派生し、相互に連携しながら役割分担のもとで活動支援につなげることができた。

【課題】

- ・ESD 地域コーディネーターを通じた相談はあるが、地域 ESD 推進拠点や ESD 活動実践者からの直接の相談は減少傾向にある。東北地方 ESD 活動支援センターの認知向上に向けて改めてセンターの PR や発信のあり方を見直す必要がある。
- ・本年度は学校に対する授業支援が中心となった。今後は企業の ESD 活動や多様なセクターとの連携に向けた働きかけが課題となる。

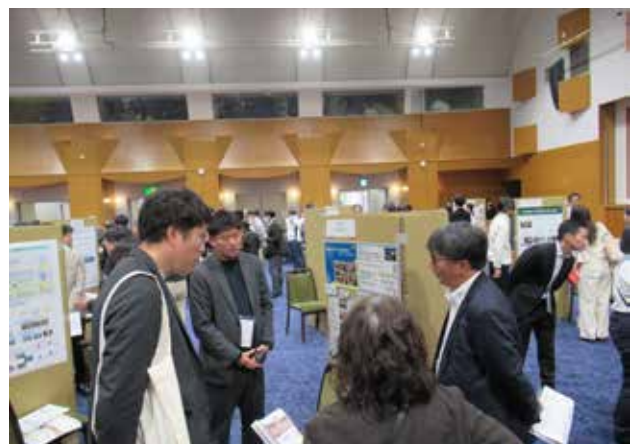
7) 全国センターとの連携協力の推進等（仕様書番号 4-（2）-カ）

① ESD 全国フォーラム

催事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2024 気候変動×〇〇～点から線、線から面へのつながりづくり～	
開催日	2024 年 12 月 1 日（日）	
開催形式	対面を中心としたハイブリット形式	
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室 （東京都渋谷区）	
参加者	会場参加	134 名
	オンライン参加	58 名（視聴申込数）
主催	ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省	
内容	環境教育・ESD 実践動画 100 選認定書授与式	
	基調報告	①黒部一隆氏（環境省 大臣官房 総合政策課 環境教育推進室長） ②本村宏明氏（文部科学省 国際統括官付 国際戦略企画官）
	ポスターセッション	30 団体によるポスターセッション（地方 ESD センター、地域 ESD 推進拠点） ※各地方センターは「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の報告を行った。
	基調講演	堅達京子氏（NHK エンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー）
	パネルディスカッション	「テーマ：気候危機を乗り越えるために我々に求められること」 【モデレーター】 二ノ宮リムさち氏（立教大学 環境学部設置準備室 / 大学院社会デザイン研究科 教授） 【パネリスト】 堅達京子氏（NHK エンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー） 佐藤真久氏（東京都市大学大学院 環境情報学研究科・研究教授） 高田研氏（地球温暖化防止全国ネット（JNCCA）理事長） 秦さやか氏（杉並区立西田小学校 主任教諭） 加藤弘人氏（青年環境 NGO Climate Youth Japan 会計統括 / エネルギー政策チーム、一橋大学経済学研究科 修士課程 1 年）



実践事例の共有



ポスターセッション

② ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

催事名	第1回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
開催日	2024年6月13日（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）
参加	（人数把握なし） （環境省、全国・地方 ESD 活動支援センター、オブザーバー）
内容	（1）ESD に関する最新動向（文科省、環境省） （2）令和6年度全国センター活動内容 （3）令和6年度地方センター活動内容 （4）行政レビューに対する進捗・結果報告及び意見交換

催事名	第2回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
開催日	2025年1月17日（金）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）
参加	約70名 （環境省、全国・地方 ESD 活動支援センター、オブザーバー）
内容	（1）令和6年度全国センター活動報告 （2）令和6年度地方センター活動報告 （3）令和7年度新規事業について （4）ESD 活動支援センターにおける評価指標について

③ ESD 活動支援センターの今後の方策を考える意見交換会

催事名	ESD 活動支援センターの今後の方策を考える意見交換会
開催日	2024年7月25日（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	青山ブックセンター 大教室（東京都渋谷区）
参加	（人数把握なし） （環境省、全国・地方 ESD 活動支援センター、オブザーバー）
内容	（1）ESD 及び ESD 活動支援センター関連事業の進捗報告（環境省） （2）令和6年度第1回 ESD 活動支援企画運営委員会の開催報告 （3）ESD 活動支援センターの今後の方策に関する意見交換
備考	計画にはないが、第1回連絡会後に必要と判断して開催された会議



ESD 活動支援センターの今後の方策を考える意見交換会（R6/7/25）

④ 全国協力団体意見交換会

催事名	第1回 全国協力団体意見交換会
開催日	2024年7月24日（水）
開催形式	対面
会場	ビジョンセンター東京日本橋 セミナールーム 301（東京都中央区）
参加	43名
内容	（1）ESD に関する最新動向 及川幸彦氏（奈良教育大学 教育連携講座 / ESD・SDGs センター 准教授） （2）全国協力団体等から最新の取組紹介 （3）ネットワーキング・名刺交換タイム

※第2回はESD推進ネットワーク全国フォーラム(2/1)として実施



第1回 全国協力団体意見交換会（R6/7/24）

⑤全国センター企画運営委員会

催事名	第1回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	2024年6月27日（木）
開催形式	対面を中心としたハイブリット形式
内容	（1）運営委員自己紹介 （2）令和5年度地域 ESD 拠点年次アンケート結果報告及び意見交換 （3）令和6年度全国センター活動内容の説明及び意見交換 （4）行政事業レビュー結果報告及び意見交換
備考	地方 ESD 活動支援センターはオンラインでオブザーバー参加

催事名	第2回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	2025年2月28日（金）
開催形式	対面を中心としたハイブリット形式
内容	（1）令和6年度全国センター活動報告 （2）令和6年度地方センター活動報告 （3）令和7年度 ESD 活動支援センター新規事業についての説明及び意見交換 （4）ESD 活動支援センターにおける評価指標の説明及び意見交換
備考	地方 ESD 活動支援センターはオンラインでオブザーバー参加

8) その他

①青森県ユネスコスクール連絡協議会

●プロジェクト概要

青森県内のユネスコスクール※（キャンディデート校※含む）の活動の活性化と、ユネスコスクール同士の交流や研修、情報交換の体制を構築することを目的に、一般社団法人青森県ユネスコ協会が主導して連絡協議会の設立に向け準備が進められた。令和3年度(2021)に青森県で開催した東北ESD/SDGsフォーラムをきっかけに青森県ユネスコ協会との連携が生まれ、東北地方ESD活動支援センターも連絡協議会のメンバーとして参画した。

※ユネスコスクール：ユネスコの理念を学校現場で実践するために発足した、国際的なネットワーク ASPnet（Associated Schools Project Network）加盟校。1953年に発足し、現在では世界最大規模の学校ネットワークとなっている。

※ユネスコスクール・キャンディデート校：国内審査を終えユネスコ本部に申請中の（または申請を行う段階にある）学校

催事名	青森県ユネスコスクール連絡協議会 準備会
開催日	2024年8月9日（金）
開催形式	対面
会場	野辺地町観光物産センター 2F イベントホール（青森県上北郡野辺地町）
参加者	8名
主催	一般社団法人青森県ユネスコ協会
後援	青森市教育委員会
内容	青森県内の関係者が集まり、連絡協議会の設立に向けて意見交換が行われた。 （1）経緯説明 （2）各校からの活動状況と課題説明 （3）意見交換 （4）青森県ユネスコスクール連絡協議会要綱案の検討 （5）設立総会開催期日の調整

協議会メンバー
八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校
青森県立八戸北高等学校
八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
青森市立東中学校
一般社団法人青森県ユネスコ協会
ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム
東北地方 ESD 活動支援センター

催事名	青森県ユネスコスクール連絡協議会 設立総会
開催日	2025年1月9日（木）
開催形式	対面
会場	八戸市公会堂 2 階会議室 1（青森県八戸市）
参加者	13 名
主催	一般社団法人青森県ユネスコ協会
後援	青森市教育委員会
内容	連絡協議会の設立総会が開催され、協議会の要綱の検討、事業計画の確認が行われた。 （1）仮議長選出 （2）青森県ユネスコスクール連絡協議会要綱の検討 （3）各校の令和7年度の活動予定概要の説明 （4）令和7年度青森県ユネスコスクール連絡協議会の事業計画及び収支予算



青森県ユネスコスクール連絡協議会 設立総会（R7/1/9）

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告（3）その他 企業等との協働事業

1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

① 地球環境基金主催 EPO 連絡会議

開催日	2024 年 7 月 22 日（月）
開催形式	対面
会場	環境再生保全機構 9 階 第 4 会議室
参加者	38 名
内容	EPO と地球環境基金の連携について、今後の全体的な見通しや各事業の実施について共有と意見交換が行われた。 (1) 2025 年度地球環境基金募集案内案) 及び地域課題調査等のパイロット事業について (2) 2025 年度地球環境基金助成金の募集、説明会実施概要について (3) その他

② 東北地区高校生 SDGs セミナー

催事名	<全国ユース環境ネットワーク> 2024 東北地区高校生 SDGs セミナー夏 『生物多様性と SDGs ～高校生同士の SDGs 意見交換会』
開催日	2024 年 8 月 1 日（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	TKP ガーデンシティ 21 階ホール 21A （仙台アエル内）（宮城県仙台市）
参加者	東北 6 県の高校（合計 18 高校）
主催	独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局
共催	環境甲子園（NPO 法人環境会議所東北）
協力	環境省、EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センター
協賛	キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SG ホールディングス株式会社、株式会社タニタ
内容	東北 6 県から 18 校の高校生が集まり、「生物多様性と SDGs」をテーマに、グループに分かれワークショップと意見交換会を実施しました。 (1) セミナー全体紹介 (2) 全国ユース環境ネットワーク説明 (3) 高校生自己紹介 (4) 情報共有～ SDGs 概要紹介 (5) 基調講演 熊谷 将吾氏（東北大学大学院工学研究科応用化学専攻 准教授） (6) ワークショップ

③ 2025 年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）

催事名	【東北地区】2025 年度 地球環境基金助成金オンライン説明会
開催日	2024 年 10 月 29 日（火）
開催形式	Web 会議
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	45 名
主催	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
企画運営	EPO 東北
内容	2025 年度の助成金募集に際し、助成金の内容や基準、申請方法の理解を深めていただくため、事例紹介を交えた説明会を実施した。 (1) 助成金説明 (2) 地球環境基金の概要・助成メニュー紹介 (3) 助成金を活用した事例紹介 現助成団体：認定 NPO 法人 みちのくトレイルクラブ 過去助成団体：一般社団法人はまのね (4) 助成金応募について (5) 質疑応答



2024 東北地区高校生 SDGs セミナー夏（R6/8/1）



2025 年度地球環境基金助成金説明会 配信会場の様子（R6/10/29）

2) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト

事業名		「マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト ～みらいの海を守る高校生イニシアチブ～」(地球環境基金助成事業)	
実施主体		一般社団法人あきた地球環境会議 (CEEAA)	
実施期間		令和5年度～令和7年度(3年間の継続実施を予定)	
対象地域		マレーシア サバ州	
R6 年度	マレーシア 研修	渡航期間	2024年7月29日(月)～8月8日(木)
		渡航 メンバー	CEEAA スタッフ、秋田中央高校生徒教員、秋田県地球温暖化防止活動推進員、通訳、 EPO 東北、計11名
	日本研修	来日期間	2025年1月21日(火)～28日(火)
		来日 メンバー	マレーシア サバ州環境保護局 職員4名

●事業概要

マレーシア・サバ州の高校生を対象に、秋田で展開しているプラスチックごみ現況把握調査やそれに伴う環境教育をベースとし、地域文脈に則った環境保全と循環型社会形成、SDGs 達成のリテラシー向上を得た上で、加速度的な意識・行動変容の促進を目指す。更には、具体的かつ実践的なアプローチを用いた持続可能な海洋プラスチックごみ対策の定着を図る。また、マレーシア政府の意向や動向を反映した形の環境教育を通しては、マレーシアと日本でのグローバル環境リーダーが育成され、本事業がベストプラクティスとして波及することを目指す。

①マレーシア研修 活動概要

①表敬訪問

- ・コタキナバル市役所 環境・ゴミセクション課
- ・サバ州政府環境局
- ・在コタキナバル日本領事事務所

町中は以前よりもゴミが少なくなり、改善されているが、ゴミ分別は依然として進展していない。本プロジェクトはコタキナバルのゴミ問題という大きな課題に取り組んでおり、市や州政府とも連携して進められているため、重要な取組みであると考えられている。

②視察および調査

- ・カユマダンゴミ処分場
- ・ガヤ島(ロボン村)水上集落の投棄ゴミ実態調査
- ・Tonibung リサイクルセンター

不法移民の水上集落から投棄されるゴミは、交通渋滞、インフラ整備と並び、コタキナバル市の3大問題の1つとされている。最終処分場では不法移民が捨てられたゴミから有機物を回収して業者に売り、1日数百円で生活している。

③研修

- ・Tanjung Aru Marine Ecosystem Center (環境保全施設)

主にプラスチックゴミを回収し、アップサイクルで価値を付けて販売している施設で、環境学習の研修も受け入れている。成り立ちや役割、地域での活動についての講義の後、コーヒーマシンの豆カップを使ったワークショップを行った。

④教材開発に関する協議

- ・SMK Datuk Peter Mojuntin 高校
- 秋田中央高校の生徒がゲーム形式で海洋プラゴミ問題を学ぶ教材を作成した。SMK Datuk Peter Mojuntin 高校は教材の共同開発校で、テスト実践後に改善に向けた意見交換を行い、滞在期間中に改良を行った。



SMK Taman Tun Fuad 高校でのワークショップ



コタキナバル市役所 環境・ゴミセクション課、ロバート課長へ表敬訪問



ガヤ島(ロボン村)水上集落の投棄されたゴミ

⑤環境教育の実践

- ・ SMK Taman Tunfuad 高校
- ・ SMK Datuk Peter Mojuntin 高校
- ・ SM St Francis Convent 高校
- ・ SM St Michael Penampang 高校

改良された教材を基に環境教育の実践を行った。英語を母国語としない生徒同士、ICT、ジェスチャー、マレー語通訳を駆使しながらゲームを進め、学びを共有した。開始前、開始後に同じアンケートを取り、意識の変化についても調査を行った。

⑥ワーキングチーム会議

- ・ サバ州政府環境局

事業評価を共有し、次年度事業に向けた合意形成を行った。



SMK Datuk Peter Mojuntin 高校の生徒との記念撮影

②日本研修 活動概要

①表敬訪問

- ・ 秋田県庁

秋田県の神部秀行副知事へ表敬訪問を行った。

②ワーキングチーム会議

今年度活動の振り返り、動画内容の再検討、次年度事業検討が行われた。次年度は事業3年目の成果報告として、コタキナバル市（マレーシア）において両国の高校生による共同発表が検討されている。開催のタイミングや関係者の招致について意見が交わされた。

③環境保全取組・環境教育視察

- ・ 秋田県立秋田中央高等学校
- ・ センターズ（秋田市役所内）
- ・ 秋田ウッド（株）
- ・ 震災遺構仙台市立荒浜小学校
- ・ 仙台市環境企画部資源循環課
- ・ EPO 東北
- ・ 八木山動物公園

秋田県立秋田中央高校への訪問では歓迎レセプションとして弓道部により弓道体験が行われた。マレーシアでの活動の成果やアンケート分析の報告を受けた。また、リサイクル木材とプラスチックを利用した再生木材を製造する「秋田ウッド」の視察を行った。主にウッドデッキやベンチ等の資材として使用され、大手設備メーカーにも商品を納品している。劣化しにくい利点があり、表面を研磨する事で木材の質感を出すことができる。

また ESD 教育の視点から、東日本大震災の震災遺構仙台市立荒浜小学校の視察や、EPO 東北との情報交換、八木山動物公園で環境学習プログラム体験と意見交換を行った。



八木山動物公園での環境学習プログラム体験



EPO 東北訪問研修

東北環境パートナーシップオフィス 運営第6期 令和6年度事業実施報告書（2024年度）
発行：令和7年3月31日

■東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）
TEL：022-290-7179 FAX：022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp
URL：https://www.epo-tohoku.jp

■東北地方 ESD 活動支援センター
TEL：022-393-9615 FAX：022-290-7181
E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
URL：https://tohoku.esdcenter.jp/

office：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F
OPEN 9：00－17：30（月～金）



◇運営団体◇公益財団みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
office：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jp
URL：https://www.melon.or.jp/index.html